

# 高等学校シラバス例示集



平成16年2月

神奈川県立総合教育センター

## はじめに

新学習指導要領に基づく教育活動が始まって、小学校・中学校においては二年目が、高等学校では一年目が終わろうとしています。今回の教育改革の理念である「生きる力」の育成に向けて、各学校では「確かな学力の向上」、「豊かな心の育成」、そして「信頼される学校づくり」をめざし、さまざまな研究や実践が行われています。とりわけ、「確かな学力の向上」に関しては、各学校におきましても児童・生徒一人ひとりが学ぶ楽しさを実感でき、学習内容を確実に身に付けることのできるカリキュラムづくりやきめ細かな指導の充実に期待が寄せられています。そのため、各学校では、これまで以上に、創意工夫を生かした指導技術を駆使して「わかる授業」を実現し、児童・生徒が達成感を持ちながら基礎的・基本的な内容をしっかり習得し、自ら学び自ら考える力などの「確かな学力」を身に付ける教育の実践に対応する中で、厚い信頼関係を築いていくことが求められています。

そのような状況を踏まえ、総合教育センターでは、高等学校教育に関して、本県の県立高校再編をはじめ全国の動向を視野に入れた研究の一つとして、学習者にとって「学びのナビゲーター」的役割を担うシラバスに関する研究に取り組んできました。その成果の一部はすでに当センターのホームページに「高等学校シラバスの作成」と題して掲載し配信を行いましたが、その後県内はもとより全国から予想以上の反響がありました。

そこで、当センターではこの度、高等学校のニーズ等を考慮し、目標と指導と評価の一体化を基調とした高等学校のシラバス例示集を作成しました。本例示集を各学校でのシラバスづくりや授業改善等における参考資料として御活用いただければ幸いです。また、当センターのカリキュラム開発センターには、県内をはじめ全国の特色あるシラバスを豊富に配架しておりますので、併せて御活用くださいますようお願い申し上げます。

平成 16 年 2 月

神奈川県立総合教育センター

所 長 鈴 木 宏 司

# 目 次



シラバス例示集の活用に向けて・・・ 1

## 学校経営シラバス

学校経営シラバス・・・ 4

学年経営シラバス・・・ 6

## 教科シラバス

国語科 国語総合シラバス・・・ 8

地理歴史科 日本史Aシラバス・・・ 12

公民科 現代社会シラバス・・・ 14

数学科 数学 シラバス・・・ 16

理科 化学 シラバス・・・ 18

保健体育科 保健シラバス・・・ 20

芸術科 美術 シラバス・・・ 22

外国語科 英語 シラバス・・・ 24

家庭科 家庭総合 シラバス・・・ 26

情報科 情報Aシラバス・・・ 30

工業化学科 工業化学シラバス・・・ 32

## 特別活動シラバス

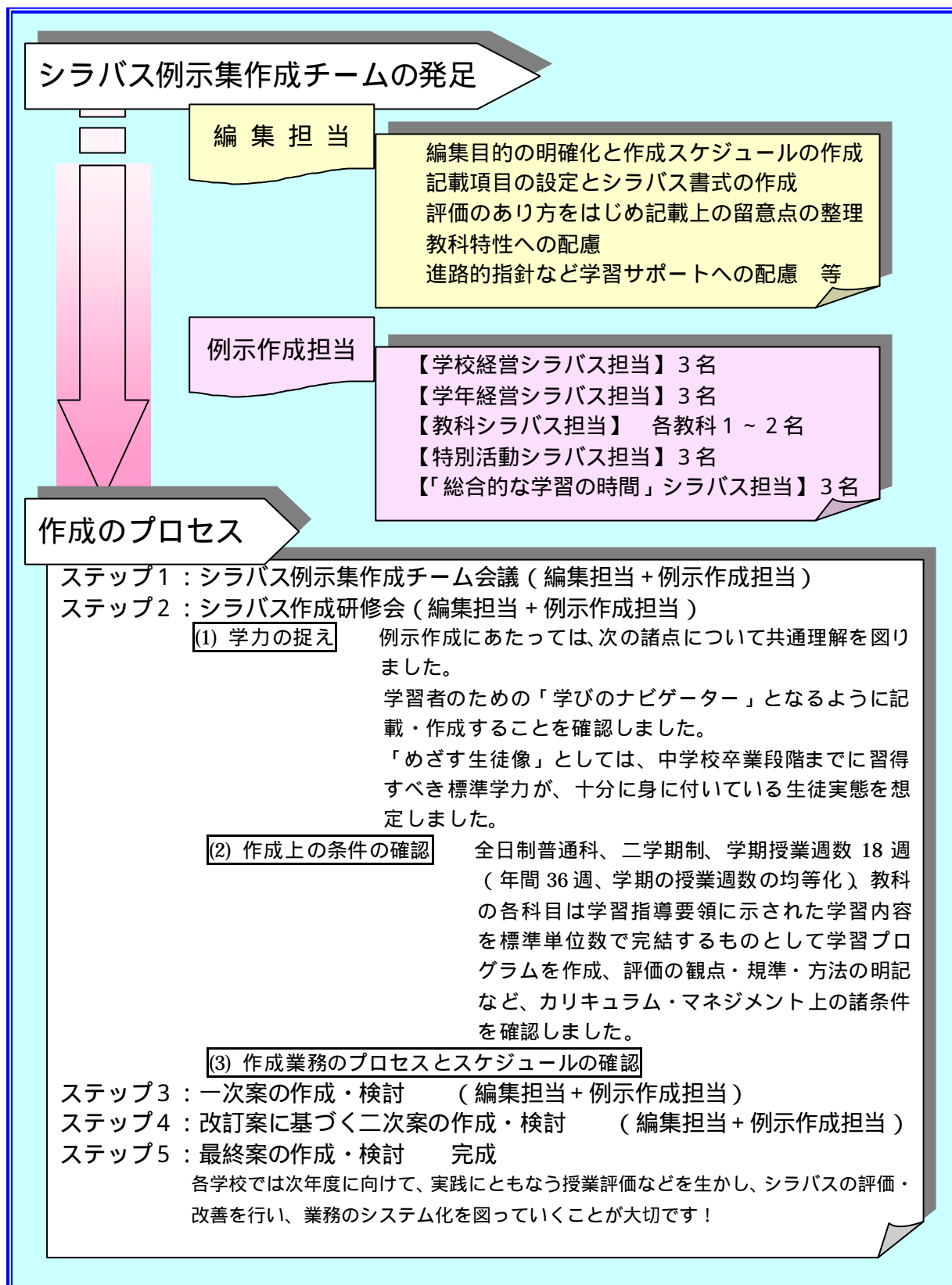
特別活動シラバス・・・ 36

## 「総合的な学習の時間」シラバス

マイ・キャリア・デザインシラバス・・・ 38

# シラバス例示集の活用に向けて

例示集の作成にあたっては、以下のように取り組みました（参考）。



シラバスの作成にあたっては、当センター・ホームページの「[高等学校シラバスの作成](#)」（後掲の[参考資料](#)）を参考にしてください。

# 教科シラバス ( 地理歴史科 )

## 作成上の留意点

コンピュータを活用した講座履修の掌握や成績処理等を目的としたものです。

科目名	日本史 A	学年	2年	教科書	日本史 A	出版社
		必修・選必修	必修	教材	【副教材】日本史史料集 図説日本史	出版社 出版社
講座		単位数	2単位			
学習系統科目	日本史 B ( 4 単位 )、日本近代史研究 ( 学校設定科目・2 単位 )					

## 学習目標

この欄には、教育課程上で同科目と関連する科目と単位数等を列記し、学習をナビゲートする役割を担います。

日本史 A では、これまで皆さんが小・中学校で学んだ歴史の知識や学習経験をいかして、日本の近現代史を中心とする歴史の展開を、ペリー来航をめぐる開国前後にさかのぼり・・・

この欄は、生徒の学力実態を十分に踏まえた記述に努めます。

また、小・中学校での学習を踏まえ、高等学校での学びの継続性や教科の専門性を学習者に理解させることを前提に、わかりやすい表記に努めることが望めます。

## 学習方法

毎時間の授業では、はじめに必ず学習のめあてを示しますので、それを手がかりに、学習プリントに即して史料集や図説を参考にして、積極的に学習しましょう。

この欄は、本科目の授業の進め方等を紹介するだけでなく、学習者が主体的かつ意欲的に学習に専念できるよう、学習方法を必要最小限でガイドすることが求められます。

## 学習評価

次の四つの観点に基づき、とに下の評価マトリクスに

関心・意欲・態度	近現代史 国際社会に
思考・判断	近現代史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断
資料活用の技能・表現	近現代史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるともや結果を適切に表現している。
知識・理解	近現代史の展開についての基本的な事柄を世界的と関連づけて理解し、その知識を身に

この欄では、指導要録改訂通知等に示されている各教科・科目ごとの評価観点を参考にして、各学校の生徒の実態に応じた評価規準と4観点を見とる評価方法を明示します。また、ここで示した評価方法は、学習プログラムの当該欄の記載と一体化するよう努めます。

評価方法は教科・科目の特性等を考慮し、評価の観点・評価規準に基づいて、学習者の変容等が見とれるものを精選します。



学習の過程で自己評価を実施しましょう。

表中の は観点の中でより重視するところです。

学習者に対するきめ細かな指導やサポートの準備があること、またその学習に関連して進路や生き方等の相談にも対応していること等を明記します。

## 学習サポート

随時、学習相談を実施していますので、理解の難しいところ、つまづいている箇所があれば、早めに解決しましょう。

進路を踏まえた学習相談にも個別に対応しますので、積極的に活用しましょう。

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期 36 単位 時間 想定	0 日本近現代史を学習するにあたって 1 近世から近代へ - 「内憂外患」 - 2 日本国と幕末維新 (1) 鎖国と幕末の国際関係 (2) 幕末の政治と社会 (3) 明治維新と文明開化 (4) 明治初期の外交関係	近現代史の流れを大きくとらえるとともに、さまざまな歴史資料について理解を深め、歴史的なものの見方や考え方を身に付けます。開国後の国際関係、国内の政治や社会動向について考え、理解を深めます。	学習プリントに即して、史料集や図説等を活用し、歴史的な諸事象を系統的に学習します。
	3 近代国家の形成 (1) 士族の反乱と自由民権運動 (2) 立憲体制の成立と初期議会 (3) 条約改正交渉の展開 (4) 日清戦争 (5) 藩閥政治と政党政治 (6) 日露戦争 4 近代産業の成立と近代文化の形成 (1) 産業革命の進展と資本主義の確立 (2) 社会問題の発生 (3) 近代文化の形成と展開 <歴史と生活 - 交通・通信の変化 - >	自由民権運動から立憲体制が成立するまでの近代国家の形成過程を、日本をめぐる国際関係と関連づけて考察し、理解を深めます。明治時代の産業革命の進行と近代文化の諸相についてとらえ、理解します。「交通と通信」をテーマに、個々に課題を設定・追究します。	学習プリントに即して、史料集や図説等を活用し、歴史的な諸事象を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【前期末末考査】 【自己評価】 個別の課題に即して調査活動や探究活動を行います。 【課題レポート】
後期 36 単位 時間 想定	5 第一次世界大戦と大正デモクラシー (1) 第一次世界大戦と国際関係 (2) 政党政治の展開と国内経済・社会 (3) 大衆文化の形成 6 昭和の開幕と第二次世界大戦 (1) 昭和恐慌と協調外交をめぐる問題 (2) 満州事変から日中戦争への展開 (3) 戦時体制と国民生活 (4) 太平洋戦争 <歴史と生活 - 地域社会の変化 - >	両大戦をめぐる国際情勢の変化と日本の動向に関して、政治、経済、社会、そして文化など総合的にとらえ、関連づけを図り、考察します。「地域社会の変化」の諸相から自ら課題を設定・探究し、その成果を発表します。	学習プリントに即して、史料集や図説等を活用し、歴史的な諸事象を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【後期中間考査】 【自己評価】 個別の課題に即して調査活動や探究活動を行い、発表します。 【課題レポート】
	7 第二次世界大戦後の日本と世界 (1) 占領政策の展開と日本の復興 (2) サンフランシスコ講和会議 (3) 55年体制の成立と安保問題 (4) 高度経済成長から低成長へ (5) 冷戦の終結と経済大国日本 (6) 現代の日本と世界	第二次世界大戦後の日本の戦後復興と経済的発展の諸相を、国際情勢と関連づけて考察するとともに、未来の日本の姿を探求します。	学習プリントに即して、史料集や図説等を活用し、歴史的な諸事象を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【後期末末考査】 【自己評価】

例示集では、二学期制に基づき、前期・後期の授業週数を均等にして、それに対応した学習計画を立案しています。

学習のねらいや学習活動の欄は、学習者の立場にたってわかりやすく記述することに努めます。

## 学校経営シラバス

分野	学校経営	設置区分	県立	学校規模	学年	1年	2年	3年	合計
		設置課程	全日制		学級数	6	6	6	18クラス
		設置学科	普通科		生徒数	240	238	236	714名
		学期区分	二学期制		教員数	12	12	12	36名
校長		教職員数	56名	(SA)	(3)	(4)	(4)	(11名)	
学校の沿革	昭和23年 新制高校の発足により、神奈川県立 高等学校として開校 昭和60年 本館の改築工事及び個性化教育施設の新築 平成10年 創立50周年記念式典の実施 平成12年 地域学習センター施設を併設 平成15年 二学期制への改編と学校評議員による外部評価を生かした学校評価の導入								

### 教育方針

- 1 知・徳・体の調和がとれた教育の実践を通して、豊かな人間性を涵養する！
- 2 自己の進路や生き方を探究し、実現を図る自己教育力の育成を期す！
- 3 情操豊かで実践力に富み、人間尊重の精神を基本として国家及び社会に貢献できる人間の育成を図る！

### めざす生徒像

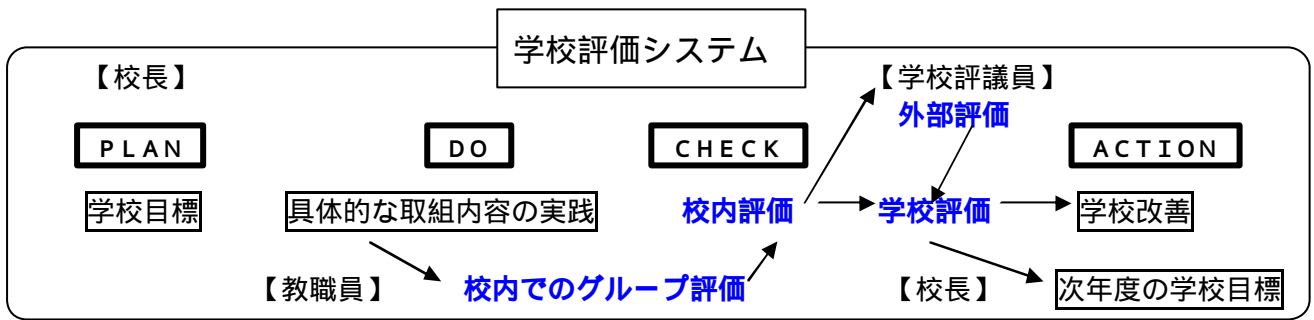
目標をもって、教育活動に積極的に取り組む生徒の育成をめざします。  
 自分の個性を伸ばし、自らの可能性を追求する生徒の育成をめざします。  
 心豊かで、思いやりを大切にする生徒の育成をめざします。  
 「知・徳・体」のバランスのとれた生徒の育成をめざします

## 本年度の学校経営ストラテジー

次の四つの学校目標に基づく具体的な取組内容の実現に向けて取り組み、外部評価を踏まえて学校評価を実施し、その結果を生かして学校改善を果たすなど、学校経営の活性化をめざします！

学校目標	具体的な取組内容
キャリア教育、教科指導を計画的に推進し、学力の定着・向上、進路実現を図る。	1 学習指導計画（シラバス）を作成し、生徒・保護者へ提示する。 2 学力向上のための新たな講座設定、教材の研究・開発に努める。 3 到達度の評価、ワークショップを取り入れるなど、個々の生徒の理解度を測るとともに、授業評価を生かして教授方法を工夫する。 4 インターンシップやジョブ・シャドウ等の体験的な活動を展開して、生徒が自らの学習活動を通して将来的な進路展望を持てるキャリア教育を実施する。
環境教育および国際理解教育を推進する中で、生徒の個性の開発・伸長を図る。	1 資源の分別回収、再利用等を徹底する。 2 生徒の美化活動を徹底させ、校内環境の整備に努める。 3 紙資源・電気の節約を進め、省エネルギーの取り組みを推進する。 4 国際的な環境基準である ISO14001 に係る取り組みを推進する。 5 国際交流等を生かして国際理解教育を推進する。
心身の健康の保持・増進を基盤とし、ガイダンス機能や特別活動を充実させ、円満な人格形成を図る。	1 個に応じたきめ細かな生徒指導・進路指導を行う。 2 教育相談体制を充実し、人権保護、不登校・いじめ防止等の諸問題に対して組織的に取り組む。 3 心身の健全な育成をめざし、健康教育に計画的・継続的に取り組む 4 教職員のカウンセリングマインドを徹底した生徒指導を行う。 5 スクールカウンセラーや外部の教育相談機関を活用する。
学校の安全管理を徹底するとともに、安全教育を推進する。	1 学校の安全管理マニュアルに基づき、危機対応の訓練をする。 2 学校生活に係る安全な環境の整備を進める。 3 個人情報保護と管理のシステムを徹底する。 4 日頃より危機意識をもち、安全管理上の改善提案を推進する。 5 貴重品の管理や部室等の施錠を徹底するなど防犯に努める。 6 自転車指導など、交通安全教育に計画的・継続的に取り組む。





教育活動プログラム

	教科	総合的な学習の時間	特別活動	生徒指導	進路指導
前期・後期 計36週	<p>生徒自ら学び、自ら考える力など「生きる力」の育成を図ります。</p> <p>教材研究等を十分にを行い、指導方法の工夫・改善及び個に応じた指導の充実を図ります。</p> <p>学習状況の評価を適切に行い、基礎的・基本的な学習内容の指導を徹底します。</p> <p>学習アシスタント(SA)により、充実した学習支援を行います。</p> <p>生徒・教員・学校評議員による授業評価を実施します。</p> <p>【1学年】 中学校課程での学習内容の理解度を踏まえた基礎・基本の定着及び学習習慣の定着を図ります。</p> <p>【2学年】 自己学習力の育成及び進路適性を踏まえた教科・科目の選択基礎・基本の定着を踏まえた発展的学習に取り組めます。</p> <p>【3学年】 一人ひとりの進路実現に向けた系統的な学習や課題解決学習などを通して、社会的視野を広げる学習指導を行います。</p>	<p>問題意識をもって地域や生活を見つめ、自分を取り巻く課題を見つけます。</p> <p>自ら学び、自ら考え、問題を解決する学び方が身に付けます。</p> <p>体験的な活動や問題解決的な学習に目標をもって学び続けます。</p> <p>自分のあり方生き方を考えていきます。</p> <p>総合的に生きて働く力を身に付けていきます。</p> <p>(学習のテーマ) 学習ガイダンス メディア ボランティア活動への理解と実践 生徒・教員・学校評議員による授業評価を実施します。</p> <p>【1学年】 地域を知ろう! (郷土・環境・福祉)</p> <p>【2学年】 調査・観察・発表の力を高めよう! (環境・福祉・国際理解・情報)</p> <p>【3学年】 個人研究をまとめよう!(自分の興味関心に基づいた研究を卒業論文にまとめよう)</p>	<p>望ましい集団活動を通して集団の一員としての自覚を深め、協力して学校生活を築こうとする自主的・実践的態度を育みます。</p> <p>【ホームルーム活動】 楽しく充実した規律ある学級をつくり、学級集団の中で自己の能力を生かして積極的に活動できるように取り組みます。</p> <p>【生徒会活動】 主体的、自主的な集団活動を通して、社会に貢献できる力の基礎を培い、充実した学校生活になるよう取り組みます。</p> <p>【学校行事】 学校生活を有意義なものにするために必要な連帯感や所属感を養い、体験活動などを通して社会奉仕の精神などを培います。</p>	<p>生徒一人ひとりを具体的に理解し、深い信頼関係に基づく指導・助言に努めます。</p> <p>教育相談の充実 生徒の特性を十分考慮し、教育活動全体を通じて、積極的に自己を生かしていくことができるような指導・支援に努めます。</p> <p>地域の小学校・中学校、家庭・地域・関係諸機関との緊密な連携を図り、地域ぐるみの健全育成を展開していきます。</p> <p>【1学年】 基本的生活習慣(時間的、集団生活における規範的、基本的人権尊重など)の定着を図ります。</p> <p>【2学年】 学校組織における役割(学級、生徒会、部活動)について理解させ実践力を養います。</p> <p>【3学年】 社会生活における礼儀作法を身に付けるとともに、法令等遵守に基づく判断力や意思決定力を育みます。</p> <p>社会生活における個人の義務や責任及びボランティア活動等への理解を深めます。</p>	<p>学ぶことや働くことへの関心や自己理解を深め、将来への夢と希望をもって意欲的に学習する態度を育てます。</p> <p>キャリアガイダンス 生徒自身のよさに気づかせ、生徒自らが適切な進路選択ができるよう、支援と工夫をします。</p> <p>適性の診断と把握に基づいた進路の検討を行います。</p> <p>「志を立てる場」を設け、人間としてのあり方生き方を考えていきます。</p> <p>本校ではキャリア教育として、「総合的な学習の時間」や特別活動と連関しています。</p> <p>【1学年】 人としてのあり方生き方について、読書や異年齢間交流等を通して考えていきます。</p> <p>【2学年】 自らの興味・関心・適性・能力について、日頃の学習活動やさまざまな活動等を通して考えていきます。</p> <p>【3学年】 自分の進路実現に向けた積極的な情報収集や能力開発に努めます。</p>





## 学年経営シラバス

分野	第1学年	全日制普通科	担 当
		クラス：6クラス 生徒数：240名	・学年主任（1） ・学年副主任（1） ・学級担任（6） ・学級副担任（5） 計12名（ 副主任は、学級担任を兼務）

### 学年経営方針

本校の学校目標の4つの柱（1．計画的なキャリア教育・教科指導の実践による学力の定着・向上、進路実現 2．環境教育及び国際理解教育の推進による個性の開発・伸長 3．ガイダンス機能や特別活動の充実による円満な人格形成 4．学校の安全管理の徹底と安全教育の推進）の実現のために、第1学年では、「一人ひとりの生徒のホームベイとなる学校・学年・クラスづくり」を学年経営の目標として設定しました。

各教科やホームルーム活動を中心とした特別活動の充実を図り、教科学習、進路選択、心身の健康等、一人ひとりの生徒が安心して充実した高校生活を送ることができるよう、学年としてのガイダンス機能を充実させ、各教員がカウンセリングマインドを持ち、「一人ひとりの生徒のホームベイとなる学校・学年・クラスづくり」をめざします。

### 学年目標

経営目標 「一人ひとりの生徒のホームベイとなる学校・学年・クラスづくり」

テーマ目標

- 一人ひとりの生徒理解に徹底して努めます。
  - 個人面談、学習（進路）相談、三者面談の計画的な実施
  - ホームルーム活動や学校行事などを通して学校への帰属意識の育成
  - 学級担任、教科担任、特別活動等の顧問間での密接な連携
  - 計画的な生徒指導による基本的な生活習慣の確立、及び生徒支援チームによる専門的、組織的な生徒指導體制づくり
- 自ら学ぶ態度の育成と基礎・基本の定着に向けて、さまざまな取組を行います。
  - 各教科、及び「総合的な学習の時間」の計画的な指導
  - 少人数授業、小テスト、授業方法の創意工夫等によるきめ細かな指導
  - 体験的活動や研究発表会、文化祭等の実施による生徒の個性発揮の場の設定
- 生徒の個性の開発と伸長を図り、自己のあり方生き方についての自覚を深めさせます。
  - 学校行事（文化祭、歩く会、学習発表会等）や長期休業中の活動（補講授業、学習合宿、マリンスポーツ・ウインタースポーツ体験教室等）部活動の充実
  - ホームルーム活動や「総合的な学習の時間」、学校行事の充実による他者理解と自己発見
  - キャリア教育や進路学習の計画的な実施
- 学校の安全管理を徹底させ、安全教育を計画的に実施します。
  - 生徒や保護者に対して安全な学校生活のためのガイダンスの実施と周知徹底
  - 交通安全教育への計画的・継続的な取組
  - 校内施設設備等の日常的な点検
- 目標（上の1～4）を達成するため、教職員はスクラムを組んで精一杯努力します。
  - 学年所属教員の一体的な取組（綿密な打合せの実施、学級担任と副担任の協働等）
  - 保護者向けの「学年だより（毎月）」の発行
  - 教育活動や月、学期ごとの目標設定、事後の評価や反省点の明確化への取組



### 評価方法

- 評価者
  - 内部評価：学級担任、相互評価（他学年の教職員、管理職等）
  - 外部評価：生徒、保護者、学校評議員等
- 評価項目
  - 行事などの教育活動ごと（各行事、ホームルーム活動、面談等）
  - 教育指導ごと（各教科指導、生徒指導、進路指導、特別活動指導等）
- 評価の時期
  - 行事などの教育活動の終了時、及び月ごと、学期ごと、学年末ごと
- 評価の公表
  - 「学年だより」やHP等を用い、改善点とともにその都度公表

## 教育活動プログラム

月	指 導 の ね ら い	指 導 内 容 等
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学してくる生徒の意識理解</li> <li>・高校へつながる学習の指導</li> <li>・入学意欲の高揚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合格者説明会での取組 アンケートの実施（高校への期待） 教育課程説明 入学前の課題（作文、国・数・英）</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HRでの新しい集団づくり</li> <li>・保護者との連携（クラス役員等の決定）</li> <li>・高校生活へのスムーズな導入 （基本的な生活習慣づくり）</li> <li>・安全な高校生活を送る（高校生活）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR開き（自己紹介、各種委員や係決め）</li> <li>・進路希望調査</li> <li>・課題確認テスト（国・数・英）</li> <li>・個人面談</li> <li>・学校安全教室</li> <li>・登校指導、校内巡回</li> </ul> 
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HRの人間関係づくり</li> <li>・集団の中での自己の位置の確認 （各委員や係の役割遂行、部活動）</li> <li>・保護者との連携の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊研修準備（体験活動計画等）</li> <li>・PTA総会、学年保護者集会、授業参観・懇談会</li> <li>・実力テスト</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな自己の発見（宿泊研修）</li> <li>・学習への取組への見直し</li> <li>・社会的視野を広める（異年齢集団との交流）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊研修実施（上旬：3泊4日）</li> <li>・前期中間考査対策（放課後補習等）</li> <li>・前期中間考査（下旬）</li> <li>・中学生一日体験入学（相談、案内）</li> <li>・卒業生との懇談</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的視野を広める（進路講演会）</li> <li>・奉仕活動を体験する（地域清掃）</li> <li>・安全な高校生活を送る（夏休み）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講演会、進路適性検査</li> <li>・実力テスト、2年次の選択科目説明会</li> <li>・学校安全教室</li> <li>・三者面談（～8月）</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科学習の徹底（不得意科目の克服、集中的な学習の実施）</li> <li>・読書体験や社会教育施設訪問（個人）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別補講授業、学習合宿（希望者）</li> <li>・マリンスポーツ体験教室（希望者）</li> <li>・前期期末考査対策（補習）</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を見直す</li> <li>・生徒状況把握（夏休みの振り返り）</li> <li>・新たな自己の発見（文化祭準備、地域との交流、地域の小中学校等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次選択科目調査、進路希望調査</li> <li>・登校指導、校内巡回</li> <li>・前期期末考査（中旬）</li> <li>・文化祭準備</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな自己の発見（文化祭）</li> <li>・自己を見つめ直す（後期に入って）</li> <li>・安全な高校生活を送る（学校事故）</li> <li>・社会的視野を広める（社会の施設訪問）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭（上旬）</li> <li>・実力テスト</li> <li>・社会施設訪問体験（「総合的な学習の時間」）</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的視野を広める（大学、社会人講師の授業体験）</li> <li>・体力の増進</li> <li>・進路（選択科目）を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教授及び社会人講師の授業体験（上旬と下旬）</li> <li>・歩く会（30km）</li> <li>・三者面談</li> <li>・後期中間考査対策（補習）</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奉仕活動を体験する（地域清掃）</li> <li>・安全な高校生活を送る（薬物等）</li> <li>・社会的視野を広める（芸術や文化）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期中間考査</li> <li>・芸術鑑賞会、学校安全教室</li> <li>・ウィンタースポーツ体験教室（希望者）</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HRの輪を大切に（クラス文集）</li> <li>・1年間の学習のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実力テスト</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の学習のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習発表会（2日間） （弁論、英語スピーチ、合唱、芸術作品展示）</li> <li>・後期中間考査対策（補習）</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奉仕活動を体験する（地域清掃）</li> <li>・1年間の学習への取組の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期期末考査、進路希望調査</li> <li>・学年球技大会</li> <li>・2年次の教育課程等の説明会、春休み課題提示</li> </ul>

## 教科シラバス（国語科）

科目名	国語総合	学 年	1 年	使用教材	【教科書】国語総合	出版社
		必修・選必・コース選			【副教材】国語便覧	出版社
					常用漢字の学習	出版社
					古典文法	出版社
					漢文語法	出版社
講座		単位数	4 単位			
学習系統科目	現代文（4 単位）、古典（4 単位）、郷土の文学（学校設定科目・2 単位）					

### 学習目標

国語総合は、科目名のとおりに国語を総合的に学習する科目です。授業では、現代文（近代以降の文章）と古典（古文・漢文）を教材として、「話す・聞く」「書く」「読む」といった言語活動を行い、その活動に役立てるために音声・文法・表記・語句・漢字の学習などをします。

以上のような学習活動を通して、皆さんにめざして欲しい学習目標は次の通りです。

1. 国語を適切に表現する能力や的確に理解する能力を習得し、伝え合う力を高めること！
2. さまざまな文章を読んで、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨くこと！
3. 言語文化に対する関心を深め、言語活動を積極的にを行い、読書に親しむ態度をもつこと！

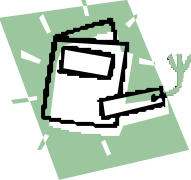
### 学習方法

単元や授業ごとに具体的な学習目標を示しますので、その目標に沿ってさまざまな言語活動（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に意欲的に取り組みましょう。また、国語の総合的な学力を身に付けるために、学習を進めるにあたっては次のことに留意しましょう。

1. 副教材や辞書（国語辞典・古語辞典・漢和辞典など）をこまめに用いること！
2. 教材を通してものの見方・感じ方・考え方を広げたり深めたりすることや、学校図書館や情報機器を活用したり、読書に親しむこと！
3. 定期的実施する、小テスト（文法・語句・漢字など）や提出物（授業プリント・感想文・レポートなど）の一つひとつを確実にこなしていくこと！

### 学習評価

次の五つの観点に基づき学習内容のまとめ（単元）ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

関心・意欲・態度	国語や言語文化への関心をもち、課題に対して意欲的に取り組もうとしている。自ら進んで意見や考えを表現し伝え合ったり、話や文章を理解しようとしている。					
話す・聞く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的・場面に応じて、筋道を立てて話したり、的確に聞き取りその内容を理解している。					
書く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的・場面に応じて、筋道を立てて明確かつ適切に文章で表現している。					
読む能力	ものの見方・感じ方・考え方を深めたり発展させたりしながら、目的に応じて、さまざまな文章を読み取ったり、読書に親しんだりしている。					
知識・理解	表現や理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・漢字などを理解し、それらを身に付けている。					
	評価方法 \ 観察					
	学習状況の観察	-	-	-	-	自己評価を含む
	発表		-	-		発表・相互評価を含む
	提出物		-			授業プリント・感想文・報告文
	小テスト		-	-		小テスト（文法・語句・漢字等）
	定期考査	-	-			年間4回


表中の「-」は観点の中でより重視するところです。

### 学習サポート

国語の学習について、どんなことでも気軽に相談してください。特に古典ではわからないことをそのままにせず、一緒に勉強していきましょう。また、漢字検定等の情報提供も行います。


学習プログラム（年間学習計画）

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期 72 単位 時間 想定	0 国語総合への誘い	0 学習の目標と方法を理解し、言語活動に主体的に取り組むようにします。	年間を通じて次の学習活動を行います。 単元や授業、または授業展開の中で、その時々々の学習目標に対応した言語活動（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）を集中的に行います。言語活動を通じて、国語を適切に表現したり、的確に理解したりする能力を身に付けるような学習をします。 表現と理解にと役立つために、音声・文法・表記・語句・漢字などについて学習します。 【学習状況観察】 【自己評価】【相互評価】 【発表】【提出物】 【授業プリント】 【小テスト】 ・漢字（週1回程度） ・文語文法、漢文訓読、漢文句法（古典単元終了時） 【前期中間考査】
	1 表現 - スピーチ - 自己紹介	1 目的や場に応じ、相手に正確に伝わるように、効果的に話します。	
	2 随筆 - 青春と発見 -	2 筆者のものの見方や考え方を文章の流れに沿って正確に読み取ります。	
	3 評論 - 日本文化の特色 -	3 文章構成に即し、論旨を的確に読みとり、ものの見方や考え方を広げます。	
	4 古文 - 古文入門・説話 - 「宇治拾遺物語」「十訓抄」	4 古文の基本的なきまりを理解し、人物・心情、情景を読み味わいます。	
	5 小説「羅生門」	5 登場人物の心情を読み味わい、表現の特色をとらえます。	
	6 表現 - ブックガイドをつくる -	6 推薦したい本について、正確に伝わるように書きます。	
	7 漢文「漢文入門」「格言・故事成語」	7 訓読を繰り返し漢文の読みに慣れ、訓読の基本を身に付けます。	
	8 評論 - 自己と他者 -	8 単元3に同じ。	
	9 古典 - 物語文学 - 「竹取物語」「伊勢物語」	9 古典文法や語句、時代背景を理解し、人物・心情、情景等を読み味わいます。	
	10 詩歌 - 近現代の詩 -	10 詩歌：詩に親しみ、表現技法や言葉の働きを理解し、詩の中の心情や情景等を読み味わいます。	
	11 漢文 - 史伝 - 「十八史略」「史記」	11 時代背景や句法を理解し、人物・心情、情景等について読み味わいます。	
12 表現 - 手紙（近況報告）を書く -	12 表現：相手や目的に応じた手紙の書き方を身に付けます。		
			（同上）  【学習状況観察】 【自己評価】【相互評価】 【発表】【提出物】 【授業プリント】 【小テスト】 ・「漢字」（週1回程度） ・「文語文法」「漢文訓読・漢文句法」（古典単元終了時） 【前期期末考査】

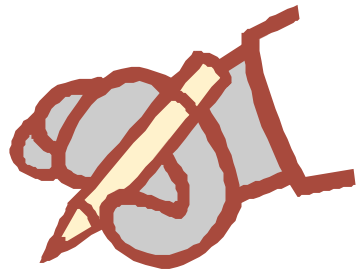
後期 72 単位 時間 想定	13 小説「津軽」	13 登場人物・心情、情景などを表現に即して読み味わい、自分の生き方と照らし合わせて考えます。	年間を通じて次の学習活動を行います。 単元や授業、または授業展開の中で、その時々々の学習目標に対応した言語活動（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）を集中的に行います。言語活動を通じて、国語を適切に表現したり、的確に理解したりする能力を身に付けるような学習をします。 表現と理解にと役立つために、音声・文法・表記・語句・漢字などについて学習します。 【学習状況観察】 【自己評価】【相互評価】 【発表】【提出物】 【授業プリント】 【小テスト】 ・「漢字」(週1回程度) ・「文語文法」「漢文訓読・漢文句法」(古典単元終了時) 【後期中間考査】
	14 古文 - 随筆 - 「徒然草」「方丈記」	14 文法や語句、時代背景をもとに、筆者の主張を正しく理解し、ものの見方や考え方を広げます。	
	15 評論 - 自然と人間 -	15 単元3に同じ。	
	16 表現 - 報告文を書く -	16 テーマを見つけ調べた内容を、わかりやすい文章にまとめます。	
	17 漢文 - 漢詩 - 「唐詩選」	17 音声教材を聞いたり、音読したりして、漢詩のきまりを理解し、心情や情景等を読み味わいます。	
	18 随筆 - 日本語の世界 -	18 筆者の考え方を文章の流れに沿って正確に読み取り、言語についての考え方を深めます。	
	19 古文 - 韻文 - 「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」	19 和歌の表現方法を理解し、詠まれている心情や情景について読み味わいます。	
	20 古文 - 日記 - 「土佐日記」「更級日記」	20 作品の特徴を理解し、心情や情景等を読み味わいます。	
	21 小説「城の崎にて」	21 主人公の心情、情景を読み味わい、生について考えます。	
	22 詩歌 - 近代の短歌と俳句 -	22 表現技法を理解し、声に出して読むなど、心情や情景等を読み味わいます。	
23 表現 - 短歌・俳句の創作と発表 -	23 心情や情景を効果的に詠み、自分の作品についてわかりやすく解説します。	 【学習状況観察】 【自己評価】【相互評価】 【発表】【提出物】 【授業プリント】 【小テスト】 ・「漢字」(週1回程度) ・「文語文法」「漢文訓読・漢文句法」(古典単元終了時) 【後期期末考査】	
24 漢文 - 思想 - 「論語」「韓非子」	24 中国の思想を理解し、ものの見方や考え方を広げます。		
25 評論 - 自然と人間・言語と表現 -	25 単元3に同じ。		
26 古文 - 軍記物語 - 「平家物語」	26 軍記物語の語りを味わい、歴史的背景や登場人物の心情を理解します。		

「読書感想文」と「新聞記事等を読んだ意見文」は、それぞれ専用のノートを作りましょう。  
それぞれ毎月、提出してください。

1. 「読書感想文」……縦書き

<p>3 感想 六百字～八百字程度</p> 	<p>2 あらすじ(要旨)</p> <p>1 作者(著者)について</p> <p>作者(著者)</p> <p>書名</p>
--	---

2. 意見文……横書き

<p>タイトル 記事の出典</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"><p>新聞の記事などを貼る</p></div>	<p>記事などの概要</p> <p>自分の意見や感想</p> 
--	---

## 教科シラバス（地理歴史科）

科目名	日本史 A	学 年	2 年	使用教材	【教科書】日本史 A	出版社
		必修・選必・コース選			【副教材】日本史史料集	出版社
講座		単位数	2 単位		図説日本史	出版社
学習系統科目	日本史 B（4 単位）、日本近代史研究（学校設定科目・2 単位）					

### 学習目標

日本史 A では、これまで皆さんが小・中学校で学んだ歴史の知識や学習経験を生かして、日本の近現代史を中心とする歴史の展開を、ペリー来航をめぐる開国前後にさかのぼり、現代の日本に至るまで詳しく学習し、その上で未来のわが国の姿を探究していきます。この学習では、さまざまな歴史資料を活用して歴史的なものの見方や考え方を身に付けるとともに、主題を設定して追究する学習を通して、歴史について自ら主体的に学ぶ態度や学び方を習得し、歴史的事象について公正に判断する思考力や理解力を身に付けることを到達目標にしています。

### 学習方法


毎時間の授業では、はじめに必ず学習のめあてを示しますので、それを手がかりに、学習プリントに即して史料集や図説を参考にして、積極的に学習しましょう。

日本近現代史におけるさまざまな歴史上の出来事については、同時代の国際社会の動向などと関連させながら、グローバルな視点からその原因や経過、さらには影響などを教科書等の教材を活用して分析的に考察し、適正にとらえていくことに努めましょう。

授業で使用する学習プリントやワークシート（確認プリント）を上手に活用して、考え、吸収した知識が確実に自分のものとなるよう、より深い理解をめざして取り組みましょう。

### 学習評価

次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに下の評価マトリクスにより評価を行い、学年末に 5 段階の評定に総括します。

関心・意欲・態度	近現代史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。					
思考・判断	近現代史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。					
資料活用の技能・表現	近現代史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用する事を通して歴史的な事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。					
知識・理解	近現代史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち、国際環境などと関連づけて理解し、その知識を身に付けている。					
	評価方法\観点					
	学習状況観察		-	-	-	自己評価の実施
	ワークシート					学習ファイルの使用
	課題レポート				-	学期に 1 回提出
	ペーパーテスト	-				確認テスト・定期考査

表中の    は観点の中でより重視するところです。

学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標到達に努めましょう。

### 学習サポート

随時、学習相談を実施していますので、理解の難しいところ、つまづいている箇所があれば、早めに解決しましょう。

進路を踏まえた学習相談にも個別に対応しますので、積極的に活用しましょう。

学習プログラム（年間学習計画）

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期 36 単位 時間 想定	0 日本近現代史を学習するにあたって 1 近世から近代へ - 「内憂外患」 - 2 開国と幕末維新 (1)ペリー来航と幕末の国際関係 (2)幕末の政治と社会 (3)明治維新と文明開化 (4)明治初期の対外関係	近現代史の流れを大きくとらえるとともに、さまざまな歴史資料について理解を深め、歴史的なものの見方や考え方などを身に付けます。開国後の国際関係や国内の政治や社会の動向について考え、理解を深めます。	学習プリントに即して、史料集や図説等を活用し、歴史的な諸事象を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【前期中間考査】 【自己評価】
	3 近代国家の成立と日清・日露戦争 (1)士族の反乱と自由民権運動 (2)立憲体制の成立と初期議会 (3)条約改正交渉の展開 (4)日清戦争 (5)藩閥政治と政党政治 (6)日露戦争 4 近代産業の成立と近代文化の形成 (1)産業革命の進展と資本主義の確立 (2)社会問題の発生 (3)近代文化の形成と展開 <歴史と生活 - 交通・通信の変化 - >	自由民権運動から立憲体制が成立するまでの近代国家の形成過程を、日本をめぐる国際関係と関連づけて考察し、理解を深めます。明治時代の産業革命の進行と近代文化の諸相についてとらえ、理解します。「交通と通信」をテーマに、個々に課題を設定・追究します。	学習プリントに即して、史料集や図説等を活用し、歴史的な諸事象を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【前期末考査】 【自己評価】 個別の課題に即して調査活動や探究活動を行います。 【課題レポート】
後期 36 単位 時間 想定	5 第一次世界大戦と大正デモクラシー (1)第一次世界大戦と国際関係 (2)政党政治の展開と国内経済・社会 (3)大衆文化の形成 6 昭和の開幕と第二次世界大戦 (1)昭和恐慌と協調外交をめぐる問題 (2)満州事変から日中戦争への展開 (3)戦時体制と国民生活 (4)太平洋戦争 <歴史と生活 - 地域社会の変化 - >	両大戦をめぐる国際情勢の変化と日本の動向に関して、政治、経済、社会、そして文化など総合的にとらえ、関連づけを図り、考察します。「地域社会の変化」の諸相から自ら課題を設定・探究し、その成果を発表します。	学習プリントに即して、史料集や図説等を活用し、歴史的な諸事象を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【後期中間考査】 【自己評価】 個別の課題に即して調査活動や探究活動を行い、発表します。 【課題レポート】
	7 第二次世界大戦後の日本と世界 (1)占領政策の展開と日本の復興 (2)サンフランシスコ講和会議 (3)55年体制の成立と安保問題 (4)高度経済成長から低成長へ (5)冷戦の終結と経済大国日本 (6)現代の日本と世界	第二次世界大戦後の日本の戦後復興と経済的発展の諸相を、国際情勢と関連づけて考察するとともに、未来の日本の姿を探求します。	学習プリントに即して、史料集や図説等を活用し、歴史的な諸事象を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【後期末考査】 【自己評価】



## 教科シラバス（公民科）

科 目 名	現代社会	学 年	1 年	使 用 教 材	【教科書】現代社会	出版社
		必修・選必・コース選			【副教材】現代社会資料集	出版社
	講座	単位数	2 単位			
学習系統科目		政治・経済（2 単位） 倫理（2 単位）				

### 学習目標

現代社会では、中学校社会科の公民的分野で学んだことを生かして、広い視野に立って、現代の社会について理解を深めるとともに、人間としてのあり方生き方について考える力を育み、公民としての資質を養うことを目標としています。

また、変化の激しい現代社会の諸問題に対して関心を高め、自ら課題を設定して主体的・意欲的に追究し、考察していく学習を通して、課題解決的な力をも育んでいきます。


### 学習方法

「現代社会」では、最初に「地球環境問題」や「豊かな生活と福祉社会」などの現代社会の諸問題から、自ら課題を設け、倫理、社会、文化、政治、経済などさまざまな観点から追求します。これによって、社会の出来事や物事の多面性を理解し、諸観点から総合的に考えることの大切さを知り、いかに生きるかを自ら考えることの意義を理解します。

次に、現代社会について、社会的、経済的、政治的、国際的に理解し、青年の生き方、経済活動のあり方、民主社会の倫理、国際社会におけるわが国の果たすべき役割などについて考えることをめざします。

### 学習評価

次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに下の評価マトリクスにより評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

関心・意欲・態度	現代社会の諸問題への関心を持ち、それを意欲的に追究するとともに、現代社会をさまざまな観点から総合的にとらえようとしている。また、自らのあり方生き方を主体的に考えることの大切さを自覚しようとしている。				
思考・判断	現代社会の諸問題と人間としてのあり方生き方のかかわりから、主体的に課題を設け、それをさまざまな観点から総合的に考察することができる。社会事象を幅広い視野から公正に判断できている。				
資料活用の技能・表現	現代社会の諸問題に関する情報を主体的に収集し、それを取捨選択して資料として活用できる。また、課題追究の過程や結果を適切に表現できている。				
知識・理解	現代社会の諸問題と人間としてのあり方生き方にかかわる知識を身に付けており、社会事象の成り立ちを多様な角度から理解している。				
	評価方法\観点				
	学習状況観察		-	-	-
	単元テスト				
	課題レポート			-	
	定期考査	-			

表中の   は観点の中でより重視するところです。

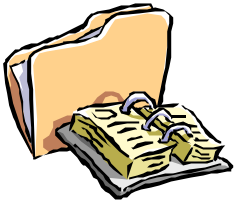
学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。

### 学習サポート

随時、学習相談を実施していますので、理解の難しいところ、つまづいている箇所があれば、早めに解決しましょう。

進路を踏まえた学習相談にも個別に対応しますので、積極的に活用しましょう。

学習プログラム（年間学習計画）

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期 36 単位 時間 想定	1 現代を生きる私たちの課題 	現代社会の諸問題の中から自ら課題を設定し、倫理、社会、文化、政治、経済などさまざまな観点から追究し、人間としてのあり方生き方を主体的に考えます。 課題に関する情報を収集し、それを資料として有効に活用して、現代社会についての公正で客観的なものの見方や考え方、さらに調べ方や学び方を学習します。	グループで、図書館、インターネット、調査等により資料を収集し、課題追究学習を行います。 【学習状況観察】 【単元テスト】 【前期中間考査】 【課題レポート】
	2 現代の人間としてのあり方生き方 (1) 現代の社会生活と青年 ア 私たちの生きる現代社会 イ 新しい生き方を求めて	大衆化、少子高齢化、高度情報化、国際化など、私たちの生きる現代社会の特質と社会生活の変化について考えます。また、青年期の意義と、自らの進路や職業などの自己形成の課題について学び、青年期のあり方生き方を考えます。	大衆化、少子高齢化、高度情報化、国際化のうち二つのテーマについて学習します。 【学習状況観察】 【単元テスト】 【前期期末考査】
後期 36 単位 時間 想定	(2) 日本経済の特質と国民生活 ア 現代の経済社会	現代の経済社会における企業の働き、公的部門の役割、租税、金融機関の働きなどについて考察します。	最近の経済動向や身近で具体的な事例を通して学びます。 【学習状況観察】 【単元テスト】 【後期中間考査】
	イ 日本経済の特質と国民生活	技術革新と産業構造の変化、雇用と労働問題、公害の防止と環境保全などについて学び、経済主体としての企業や個人の社会的責任について考察します。	新聞記事等を用い、具体的な事例を通して学びます。 【学習状況観察】 【単元テスト】 【後期中間考査】
	(3) 現代の民主政治と民主主義の倫理	日本国憲法の基本原則を国民生活との関係から理解し、民主政治における個人と国家について考えます。また人間の尊厳と平等、法と規範などについて考え、民主社会において自ら生きる倫理の自覚をめざします。	身近で具体的な事例を通して学びます。 【学習状況観察】 【単元テスト】 【後期期末考査】
	(4) 国際社会の動向と日本の果たすべき役割	国際政治や国際経済に関する諸問題について理解し、国際平和や国際協力に関する国連などの国際組織の役割と、国際社会における日本の役割と日本人の生き方について考えます。	近年の国際社会の動きを、世界の主な国の政治・経済の動向を取り上げ、具体的に学びます。 【学習状況観察】 【単元テスト】 【後期期末考査】 【課題レポート】

## 教科シラバス（数学科）

科目名	数学	学 年	1 年	使用教材	【教科書】数学	出版社
		必修・選必・コース選			【副教材】数学 問題集	出版社
講座		単位数	3 単位			
学習系統科目	数学（4単位）、数学（3単位）					

### 学習目標

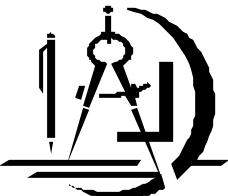
皆さんは、すでに中学校で、数と式、図形及び数量関係の領域を学びました。数学では、これらを発展させた方程式・不等式、二次関数、それに図形と計量の学習を通して、高等学校における基礎的な知識を習得するとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにし、論理的なものの考え方を身に付けることを目標とします。

### 学習方法

数学にはいろいろな公式がありますが、ただその使い方だけではなく、その公式を導けるようにすることにより公式の意味を理解することが大切です。  
 授業では、副教材を活用して数多くの問題演習に取り組むことで、高等学校で必要な計算力を養うとともに、応用問題を解くことを通して、数学的な見方やものの考え方を身に付け、より高度な問題に対応できる力を身に付けることができます。  
 高等学校の数学では積み重ねが重要ですので、授業で理解できなかった事項や解けなかった問題等をそのままにせず、必ず解決してから、次の授業に臨むようにしてください。  
 単元の終わりには必ず単元テストを実施しますので、自分の理解度を確認してください。

### 学習評価

次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに下の評価マトリクスにより評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

関心・意欲・態度	数学的活動を通して、方程式と不等式、二次関数及び図形と計量における考え方に興味を持ち、数学的な見方や考え方のよさを認識し、問題解決に生かそうとしている。					
数学的な見方・考え方	数学的活動を通して、方程式と不等式、二次関数及び図形と計量における数学的な見方や考え方を身に付け事象を数学的にとらえ、多面的・発展的に考えている。					
表現・処理	方程式と不等式、二次関数及び図形と計量において、事象を数学的に考え、表現し処理する仕方や方法を身に付け、的確に問題解決ができています。					
知識・理解	方程式と不等式、二次関数及び図形と計量において基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し基礎的な知識を身に付けている。					
	評価方法\観点					
	学習状況観察		-	-	-	自己評価の実施
	単元テスト					単元ごとに実施
	課題レポート				-	単元ごとに出题
	定期考査	-				各学期に二度実施

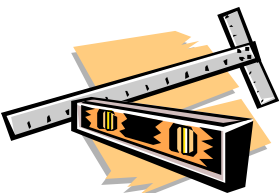
表中の   は観点の中でより重視するところです。

学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標到達に努めましょう。

### 学習サポート

随時、学習相談を実施していますので、理解の難しいところ、つまづいている箇所があれば、早めに解決しましょう。  
 進路を踏まえた学習相談にも個別に対応しますので、積極的に活用しましょう。

学習プログラム（年間学習計画）

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期 54 単位 時間 想定	1 方程式と不等式 (1) 式の計算 多項式 多項式の加法・減法と乗法 因数分解 (2) 実数 有理数と無理数 平方根とその計算	中学校で学んだ式の展開及び因数分解について、さらに発展させ、高等学校でこれから扱う式変形の基礎・基本を学びます。 (三次の乗法公式まで) 中学校まで扱ってきた数を分類・整理し、数の体系を学び、論理的な思考を身に付けます。 簡単な平方根の四則演算ができるようにします。	副教材による問題演習を交えながら基本的な式の扱い方および数の体系を学びます。 【学習状況観察】 【単元テスト】 【前期中間考査】 【自己評価】 【課題レポート】
	(3) 一次不等式と二次方程式 一次不等式 二次方程式 2 二次関数 (1) 二次関数とグラフ 関数とグラフ 二次関数のグラフ 二次関数の最大と最小 二次関数の決定	不等式の解の意味、不等式の性質、一次不等式の解法及び解の公式を用いた二次方程式の解法を学びます。 二次関数をグラフがかける形に変形し、そのグラフをかき、二次関数の値の増減についても学び、高校数学でもっとも大切な関数の考え方の重要性を理解します。 二次関数で表せる具体的な事象について考えることにより、数学的な考え方のよさを認識できるようにします。	副教材による問題演習を交えながら一次不等式、二次方程式、二次関数を理解し、関数の概念を学びます。 【学習状況観察】 【単元テスト】 【前期期末考査】 【自己評価】 【課題レポート】
後期 54 単位 時間 想定	(2) 二次不等式 二次関数のグラフと $x$ 軸の位置関係 二次不等式 3 図形と測量 (1) 三角比 正接・正弦・余弦 三角比の相互関係 三角比の拡張	二次関数と二次方程式の関係を基にして二次不等式の解法を学び、その関連性から数学の面白さを体験します。 直角三角形の辺と角の関係として正接・正弦・余弦を理解し、またその相互関係式についても学びます。 鈍角の三角比を学び、三角比が拡張できることを理解し、数学の面白さを理解します。	副教材による問題演習を交えながら二次不等式の解法及び三角比により図形を数学的に処理する方法を学びます。 【学習状況観察】 【単元テスト】 【後期中間考査】 【自己評価】 【課題レポート】
	正弦定理 余弦定理 正弦・余弦定理の応用 (2) 図形の計量 三角形の面積 相似と計量 	三角形の辺と角の間に成立する正弦定理・余弦定理を学習し、これを基に三角形の未知の辺の長さや角の大きさの求め方を学びます。 三角比による三角形の面積の公式を使っていろいろな図形の面積や体積を求めることにより、物事を数学的に扱うよさや考え方を身に付けます。 面積比・体積比について学びます。	副教材による問題演習を交えながら三角比により図形を数学的に処理する方法を学びます。 【学習状況観察】 【単元テスト】 【後期期末考査】 【自己評価】 【課題レポート】

## 教科シラバス（理科）

科目名	化学	学 年	2 年	使用教材	【教科書】化学	出版社
		必修・選必・コース選			【副教材】化学図録	出版社
講座		単位数	3 単位		化学 問題集	出版社
学習系統科目	理科総合 A（2 単位） 化学（3 単位） 環境化学（学校設定科目・2 単位）					

### 学習目標

化学では、小・中学校で学んだ理科の知識や観察実験の経験及び高校 1 年次で学んだ理科総合 A の学習をもとに、物質の化学変化と性質について詳しく学習します。自然現象や身近な生活の中でさまざまな用途に利用されている物質の化学的な性質を観察や実験を通して探究するとともに、そうした化学物質を生活の中で安全に使用できる技能を持ち、さらに化学的な概念や原理・原則を理解し、化学的な自然観を身に付けることを到達目標にしています。

### 学習方法

毎時間の授業では、はじめに必ず学習のめあてを示しますので、それを手がかりに、教科書に即して図録や問題集を活用して、積極的に学習しましょう。

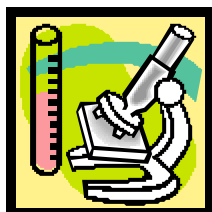
教科書で得た知識を実際の観察や実験を通して確認するとともに、化学現象の根底にある原理や法則を理解し、化学結合やエネルギーの概念で現象を化学的に説明できるようにしましょう。

授業で使用する図録や問題集、実験プリントを上手に活用して考え、吸収した知識が確実に自分のものとなるよう、より深い理解をめざして取り組みましょう。

### 学習評価

次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに下の評価マトリクスにより評価を行い、学年末に 5 段階の評定に総括します。

関心・意欲・態度	物質について関心と探究心を深め、意欲的に追究するとともに、化学変化の原理や法則を考え、よりよく利用する態度を身に付けようとしている。
思考・判断	自然現象や物質の化学的性質について科学的・合理的に考え、判断するとともに、地球環境的視野に立って多面的に考察している。
観察・実験の技能・表現	実験や実習を適切に行える技能や実験データをもとに考察し、化学的事象を追究する方法を身に付けるとともに、その成果を適切に表現している。
知識・理解	化学的な現象や物質の性質について十分な知識を持ち、原子や分子の結合の変化やエネルギー変化などをもとに考察し、生活での利用や地球環境への影響などの知識を身に付けている。



評価方法 \ 観点				
学習状況観察		-	-	-
問題回答の実績	-		-	
実験レポート				-
ペーパーテスト	-		-	

表中の   は観点の中でより重視するところです。

学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標到達に努めましょう。

### 学習サポート

随時、学習内容に関する質問に答えていますので、理解の難しい箇所があれば、質問し、早めに解決しましょう。

また、進路を踏まえた学習相談にも個別に応じていますので、積極的に活用しましょう。

学習プログラム（年間学習計画）

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期 54 単位 時間 想定	0 化学 を学習するにあたって 1 化学と人間生活 2 物質のなりたち (1)純物質と混合物 (2)原子、イオンと周期律 (3)物質と化学式 (4)物質の量の表し方 <探究活動> 天然物からのヨウ素の分離 分子量の測定 化学反応と量的関係	化学の役割や物質の取り扱い方についての認識・技能を身に付け、探究の方法を学びます。 原子や分子、エネルギーという概念をもとに化学的現象や物質の性質に関する知識や考え方を身に付けます。	教科書に即して、実験結果や図録等を活用し、化学的な諸現象や物質の性質を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【実験レポート】 【前期中間考査】 【自己評価】
	3 物質の変化 (1)酸と塩基の反応 (2)酸化還元反応 (3)化学変化と熱の収支 <探究活動> 金属のイオン化傾向 ダニエル電池 応熱とヘスの法則	酸塩基の概念、酸化還元 の概念を理解し、化学反応の量的計算ができるようにします。 金属のイオン化の違い、電池反応、熱の出入りを伴う反応を量的に理解します。	教科書に即して、実験結果や図説等を活用し、化学的な諸事象を定量的に学習します。 【学習状況観察】 【実験レポート】 【前期期末考査】 【自己評価】
後期 54 単位 時間 想定	4 無機物質の化学 (1)元素の性質と周期表 (2)非金属元素の性質 (3)典型金属元素の性質 (4)遷移金属元素の性質 <探究活動> ハロゲンの性質 アルカリ金属元素の性質 両性元素の反応 鉄イオンの性質 金属イオンの確認と分離 アルカリ金属元素の性質	無機物質及びそれらのイオンについて、既習の原子や原子団の構造や性質をもとに、性質や化学変化について学びます。 化学の基本概念や原理・法則を理解します。 代表的な無機物質については、日常生活との関連や工業化学との関連についても学びます。	物質の性質が周期的に変化することを電子構造の違いから理解します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【後期中間考査】 【自己評価】 実験を通して物質の性質と変化を把握します。 【課題レポート】
	5 有機化合物の化学 (1)有機化合物の特徴と構造 (2)炭化水素 (3)官能基を含む有機化合物 (4)有機化合物の組成と構造 <探究活動> アルコールの酸化 エステル生成 セッケンの合成 アニリンの合成と性質 アゾ染料の合成有機化合物の分離	主な有機化合物について構造・性質及び反応を理解します。 官能基による有機化合物の分類や性質の違い等を学びます。 高分子化合物及び機能性高分子について学びます。 探究的学習に基づく実習技能を身に付けます。	炭素の骨格構造に注目して有機化合物を把握・理解します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【後期期末考査】 【自己評価】 実験を通して有機化合物の性質や用途を系統的に整理し、理解します。

## 教科シラバス（保健体育科）

科目名	保健	学 年	1 年	使用教材	【教科書】保健体育	出版社
		必修・選必・コース選			【副教材】保健体育詳細学習ノート	
講座		単位数	1 単位			出版社
学習系統科目	2 年次継続の保健（1 単位）					

### 学習目標

健康に関する考え方は、近年、大きく変化しつつあります。健康を臨床的なデータや死亡率、寿命の長さといった客観的指標からとらえるだけでなく、「生きがい」などの本人の価値観にかかわる面も大事にしていこうという考え方が重視される傾向にあります。病気の有無よりもその人の人生そのものがその人にとって満足できるものであるかが重要なのです。

この学習では、個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための能力を身に付けることを目標としています。

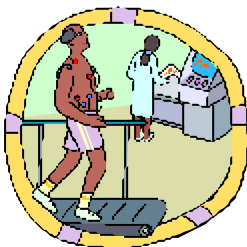
### 学習方法

毎時間の授業では、はじめに必ず学習のめあてを示しますので、それを手がかりに、学習プリントに即して教科書を参考にして、積極的に学習しましょう。

健康の保持増進に必要な事柄について、仲間と協力して資料を集めたり、意見の交換をしながら健康課題を見つけたり、これまでの学習や体験、資料などを基にし、他の人の意見や考え方などを聞いたりして、健康課題の解決方法を考えながら学習を進めましょう。ロールプレイングや実習により実践力を高めることをめざして取り組みましょう。

### 学習評価

次の三つの観点に基づき、学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに下の評価マトリクスにより評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

関心・意欲・態度	健康の保持増進に必要な事柄について関心を持ち、協力して資料を集めたり意見交換をしたりしながら課題を見つけ、意欲的に学習しようとしている。			
思考・判断	健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や体験、資料などをもとにしたり、他の人の意見や考え方を聞くなどして、課題の設定や解決方法を考え、判断できている。			
知識・理解	健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選択し、実践すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解し、個人生活及び社会生活の健康や安全について、課題解決に役立つ知識を身に付けている。			
	評価方法 \ 観点			
	学習状況観察			自己評価の実際
	ペーパーテスト			確認テスト・定期考査
	対話・対面			ディスカッション
	実習			実習状況
	学習カード			学習ファイルの使用
課題レポート			学期に1回提出	

表中の は観点の中でより重視するところです。

学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標到達に努めましょう。

### 学習サポート

随時、学習相談を実施していますので、理解の難しいところ、つまづいている箇所があれば、早めに解決しましょう。

健康を守ることができるような実践力を身に付けましょう。

学習プログラム（年間学習計画）

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期 18 単位 時間 想定	<p>1 現代社会と健康</p> <p>(1) 国民の健康水準と疾病構造の変化 (2) 健康の考え方となり立ち (3) 健康にかかわる意志決定と行動選択 (4) 保健活動と健康 (5) 生活習慣病とライフスタイル (6) 食事と健康 (7) 運動・休養と健康 (8) 喫煙と健康 (9) 飲酒と健康</p>	<p>わが国の健康水準・健康問題が時代とともにどのように変化してきたか学習し、健康の意味・健康の成立条件について理解します。</p> <p>国内外の保健活動について学ぶとともに、ヘルスプロモーションの考え方について知り、適切な行動を身に付けます。</p> <p>健康を保持増進するための個人の意志決定や行動選択の必要性について理解を深めます。</p>	<p>学習プリントに即して、ディスカッションしながら、自分自身の言葉や考え方で健康について学習します。</p> <p>【学習状況観察】 【対話・対面】 【前期期末考査】</p> <p>個別の課題に即して調査活動や探究活動を行います。</p> <p>【課題レポート】</p>
後期 18 単位 時間 想定	<p>2 生涯を通じる健康</p> <p>(1) 思春期と健康 (2) 思春期の性行動 (3) 結婚・家庭生活と健康 (4) 妊娠・出産の健康 (5) 家族計画と人工妊娠中絶 (6) 壮年期と健康 (7) 老年期と健康 (8) 保健・医療制度 (9) 医療制度～医療保障 (10) 地域保険・医療機関の活用と現代の医療</p> <p>3 現代社会と健康</p> <p>(1) 青少年の喫煙・飲酒行動とその要因 (2) 喫煙・飲酒対策 (3) 医薬品と健康 (4) 薬物乱用と健康 (5) 薬物乱用の防止 (6) 感染症の異変と予防対策 (7) エイズなどの性感染症の予防</p>	<p>生涯にわたって健康を保持増進するためには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理を行う必要があることを理解し、適切な行動ができるようにします。</p> <p>生涯を通じて健康を保持増進するためには、わが国の保健・医療制度や機関について知り、地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であることを理解します。</p> <p>未成年の喫煙、飲酒は何故禁止されているのか理解し、また薬物乱用は心身に深刻な影響を与えることから絶対に行ってはいけないということを受け入れ、適切な行動選択ができるようになります。</p>	<p>学習プリントに即して、ディスカッションしながら、自分自身の言葉や考え方で健康について学習します。</p> <p>【学習状況観察】 【対話・対面】 【後期期末考査】</p> <p>個別の課題に即して調査活動や探究活動を行います。</p> <p>【課題レポート】</p>





## 教科シラバス（芸術科）

科目名	美術	学 年	1 年	使用教材	【教科書】美術	出版社
		必修・選必・コース選			【副教材】	
講座		単位数	2 単位			
学習系統科目		美術（2 単位）、美術鑑賞（学校設定科目・2 単位）				

### 学習目標

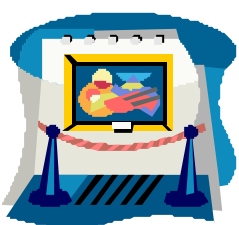
美術では、小学校の図画工作、中学校の美術で学んだ知識や経験をもとに、より高いレベルで美術の表現や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わいながら、美術のよさや美しさ、芸術の意味や価値について考えます。絵画・彫刻やデザイン、映像メディアなどの表現、日本や世界各国の美術作品鑑賞や生徒作品の相互鑑賞など、美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、感性を高めるとともに、美術表現の成り立ちを理解し、よりよい表現をめざして発想・構想の能力や表現技能を身に付け、高めていくことを目標にしています。

### 学習方法

この授業は、表現・鑑賞のいずれの場合でも、皆さん自身が行う活動を中心に進めていきますので、授業時毎に示す学習のめあてを手がかりに、積極的に活動に取り組みましょう。学習活動の成果は作品や課題レポートに表れますが、結果だけを重視するのではなく、表現や鑑賞の過程での振り返りを大切に、「何を、どのように表したかったか」「作品にどんな印象を持ったか」など、自分なりの思いや考えをもって活動に臨んでください。この授業で扱う題材は、1年間に行う他の題材と関連づけて構成されていますので、関連の意味を理解し、前の学習成果を生かし、また後の学習に生かすことを心がけて学習に取り組んでください。

### 学習評価

次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめり（一題材が学習のひとまとめり）ごとに下の評価マトリクスにより評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

関心・意欲・態度	意欲的・主体的に美術の活動に取り組み、その喜びを味わい、創造的な表現と鑑賞の能力を身に付けようとしている。					
芸術的な感受と表現の工夫	感性を働かせて自然や造形のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し、創造的に表現を構想・工夫している。					
創造的な表現の技能	材料・用具を生かして創造的な表現をするために必要な技能を身に付けている。					
鑑賞の能力	美術作品のよさや美しさを感じ、作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術との関連などを理解している。					
	評価方法\ 観点					
	学習状況観察				授業時に実施	
	活動記録表		-	-		自己評価を含む
	課題レポート			-		ワークシートを含む
	作品				-	表現題材の成果として

表中の   は観点の中でより重視するところです。

### 学習サポート

作品制作等の活動が授業時に終わらない場合、可能な限り放課後も美術教室を利用できるようにしますので、納得のいくまで試行錯誤してください。進路を踏まえた学習相談にも個別に対応しますので、積極的に活用しましょう。

学習プログラム（年間学習計画）

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期 36 単位 時間 想定	0 美術の学習にあたって		
	1 [ 絵画 ] 自然物の描写 (1)見て描くことの意味を考える (2)描写練習（クロッキー） (3)モチーフの選定・スケッチ (4)画材の効果的な選択・併用 (5)描き込み、描き重ね (6)作品の相互鑑賞	対象を見つめそのよ さや美しさを感じ取 るとともに、対象の 存在感に迫る表現を するための描写・着 彩の技能を高め、画 材の効果的な活用方 法を体験的に理解し ます。	描写練習 画材活用の練習 自然物をモチーフと した写実絵画表現（作 品制作） 【学習状況観察】 【活動記録表】 【作品】
後期 36 単位 時間 想定	2 [ デザイン ] パターン構成 (1)構成の原理の理解 (2)色の3要素・配色の原理の理解 (3)素材の図案化（題材1の作品から） (4)形・色の変容を図る (5)“ 壁紙 ” デザインの作成 (6)作品の相互鑑賞	色彩、形体など造形 要素の働きを理解 し、それらを効果的 に生かして美しく構 成する能力を高めま す。	構成・色彩学の講義 自然物をモチーフと し、図案化・パター ン化したデザイン表現 （作品制作） 【学習状況観察】 【活動記録表】 【課題レポート】 【作品】
	3 [ 彫刻 ] モニュメンタルな形 (1)イメージを表現することの意味を 考える (2)形の構想（題材2(4)の方法を 活用して） (3)陶土による成形、焼成 (4)作品の相互鑑賞	イメージを湧出させ て主題を生成すると ともに、量感や材質 感などの造形要素の 働きを理解し、立体 造形の表現技能を高 めます。	抽象的な形体の構想 粘土（陶土）による立 体造形（作品制作） 【学習状況観察】 【活動記録表】 【作品】
	4 [ 鑑賞 ] 私の好きな美術作品 (1)鑑賞文作成（題材1～3の関連作 家・作品の図版による） (2)対象作品の選定 (3)作品に関する調べ学習（制作の背 景、作者の意図、表現の工夫、等） (4)課題レポートの作成	美術作品の鑑賞を通 して作者の心情や意 図、表現の工夫など を理解し、よさや美 しさを味わいます。	鑑賞文の作成 作品に関する調べ学 習 課題レポートの作成 【学習状況観察】 【活動記録表】 【課題レポート】
	5 [ デザイン・映像メディア表現 ] 展覧会リーフレットの制作 (1)美術作家・作品の展覧会を構想する （題材4の作家・作品による） (2)PCによる作画・構成方法の理解 (3)調査、検索、資料収集 (4)PCによる作画・構成 (5)作品の相互鑑賞	生活におけるデザ インの果たす役割につ いて考え、美しく効 果的に情報を伝達す るための表現技能を 高めます。また、コ ンピュータを使った 造形表現の技能を身 に付けます。	伝達する情報内容や 目的の構想 PCによる作画・構成の 練習 PCを使ったビジュア ル・コミュニケーション・デザイン表現（作 品制作） 【学習状況観察】 【活動記録表】 【課題レポート】 【作品】
	6 年間のまとめ		



## 教科シラバス（外国語科）

科目名	英語	学 年	1 年	使用教材	【教科書】英語	出版社
		必修・選必・コース選			【副教材】英単語	出版社
講座		単位数	3 単位		オリジナルワークシート（文法）	
学習系統科目	オーラル・コミュニケーション（2単位）、英語（4単位）、 リーディング（4単位）、ライティング（4単位）					

### 学習目標

英語では、中学校で学んだ学習事項を系統的に整理しながら、より実践的なコミュニケーション能力を身に付けることを目標にします。「英語はコミュニケーションの手段である」という認識をもって、学んだ英語で積極的に自己表現をし、異文化への理解を深め、ALT（外国語指導助手）とも自信を持ってコミュニケーションができる技能を身に付けます。

特に、前期では日本人が苦手とするリスニング能力や英語の効果的学習法、あるいは辞書活用法を学び、自分の力で英語を理解する基礎力を身に付けます。後期は、より正確な英文理解や、日常的な話題について、一分程度のスピーチや会話ができるようになることをめざします。

年間を通じて、全員が「自己表現ノート」に少しずつ自分のことを英語で書いていきます。

### 学習方法

集中して授業に取り組み、できるだけ授業中に重点をマスターする努力をしましょう。

英語の学習法については授業で詳しく解説しますが、以下にいくつか具体例を示します。

- (1) 単語・熟語・構文の暗記は、細切れの時間を使って頻繁に行う。使用場面を想像する。
- (2) 教科書の音読や、音声 CD を使ったディクテーションの訓練をする。本文を暗唱する。
- (3) 学んだ単語や表現を使って英語を話したり日記を書いたりする習慣を身に付ける。

### 学習評価

次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめり（定期考査までを学習のまとめりとし）ごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

関心・意欲・態度	普段から英語を使って積極的にコミュニケーションをしようとしている。 困難な状況でも工夫しながらコミュニケーションを継続しようとして努力している。
表現の能力	学んだ英語を活用して自分の伝えたいことを正確に話したり書いたりしている。 場面や目的に応じた適切な表現を使ってコミュニケーションができています。
理解の能力	比較的短い英文について正確なリスニングと読解ができています。 様々なジャンルの英文を聞いたり読んだりして、要点や意図が理解できています。
知識・理解	授業で扱う項目について理解し、知識を持っている --- (例) 単語・熟語・文法・背景知識・段落の構造・文体の特徴・コミュニケーションのコツ, etc.



評価方法 \ 観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
コミュニケーション活動		-	-	-
自己表現ノート			-	-
小テスト	-			
定期考査	-			
パフォーマンス・テスト(注)				-

表中の は観点の中でより重視するところです。

(注) パフォーマンス・テスト --- 英語面接・プレゼンテーション等を行い、主に Speaking 能力を評価します。評価に際しては普段のコミュニケーション活動への取組状況も加味します。

### 学習サポート

英語の勉強に関する質問、TOEFL・TOEIC・英語検定受験に関する質問など、随時受け付けていますので、気軽に相談してください。

英語科資料室には各種辞書・参考図書・サイドリーダーがあり、貸出可能です。

学習プログラム（年間学習計画）

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期 54 単位 時間 想定	<b>教科書/テーマ/文体</b> オリエンテーション / 効果的な英語の学習法 Lesson 1 異文化理解 / 手紙文 Lesson 2 異文化理解 / 日記 <b>文法/タスク</b> 1~7 英文の基本構造・時制・句・節・助動詞 自己紹介・出来事の報告・Classroom English・正確な音読	英語の音声に慣れ、音読や英語でのやりとりに積極的に参加します。 教科書を理解し、正確に音読します。 基本的英文を聞いて書き取ります。 英文法、発音の基礎知識、学習法を身に付けます。	単語クイズ、ディクテーション、教科書の音読、Q&A、対話・口頭要約演習と同時に、コミュニケーションのための文法整理、読解の方法なども学びます。 <b>（年間を通じて）</b> 【学習活動の観察】 【小テスト(単語その他)】 【自己表現ノート】 【レポート・課題】 【音読テスト】 【前期中間考査】
	<b>教科書/テーマ/文体</b> 振り返り（これまでの学習上の課題） Lesson 3 歴史 / 論説文 Lesson 4 地理 / 論説文 Lesson 5 環境 / インタビュー <b>文法/タスク</b> 8~15 受け身・準動詞・関係詞 テキストの要約・感想 テキストについてのQ&A	積極的に英語で発言するよう努めます。 教科書の内容を簡単な英語で要約します。 教科書で扱ったテーマ(話題)についての未知の英文を読んだり聞いたりして理解することができますようにします。 段落の構成や要約の仕方を理解します。	(同上) 【学習活動の観察】 【小テスト(単語その他)】 【自己表現ノート】 【レポート・課題】 【音読・要約テスト】 【前期期末考査】
後期 54 単位 時間 想定	<b>教科書/テーマ/文体</b> 振り返り（前期の反省） Lesson 6 戦争と平和 / 自叙伝 Lesson 7 コミュニケーション / 論説 Lesson 8 人間と愛 / 小説 <b>文法/タスク</b> 16~22 関係詞・特殊構文 テキストの要約・感想 テキストについてのQ&A	積極的に英語を使うよう努めます。 教科書で扱ったテーマについて英語で対話ができるようにします。 さまざまな文体の英語を理解します。 英文読解の方法とコミュニケーションの工夫について理解します。	(同上) 【学習活動の観察】 【小テスト(単語その他)】 【自己表現ノート】 【レポート・課題】 【3分間面接テスト】 【後期中間考査】
	<b>教科書/テーマ/文体</b> 振り返り（学年のまとめにむけて） Lesson 9 健康 / 論説 Lesson 10 夢 / スピーチ <b>文法/タスク</b> 23~30 比較・仮定法 考え・気持ち・意見を述べる	自分なりの英語の学習法を確立し、学んだ英語を活用する技術を身に付けます。 日常的な話題についての英文を聞き、読むことで、その内容を口頭や文章で伝えられるようにします。	(同上) 【学習活動の観察】 【小テスト(単語その他)】 【自己表現ノート】 【レポート・課題】 【1分間スピーチテスト】 【後期期末考査】

(注) **教科書/テーマ/文体**は、教科書のレッスンとそのテーマ、使われている英文の文体の特徴(会話文・説明文・小説、etc.)を示しています。**文法/タスク**は、プリントを使って学習する文法項目と、その文法項目を活用して行う活動を示しています。詳しくは、4月のオリエンテーションで説明します。

## 教科シラバス（家庭科）

科 目 名	家庭総合	学 年	1・2年	使 用 教 材	【教科書】家庭総合	出版社
		必修・選必・コース選			【副教材】家庭総合資料集	出版社
	講座	単位数	4単位		食品成分表	出版社
学習系統科目	フードデザイン（学校設定科目・2単位）、発達と保育（学校設定科目・2単位）、服飾文化（学校設定科目・2単位）					

### 学習目標

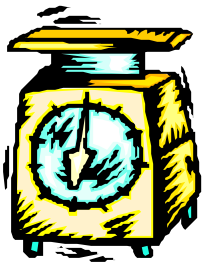
家庭総合では、これまで皆さんが小・中学校で学んだ家庭生活に関する学習経験を生かして、家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などについて、実際の生活の場で生きて働く力となるように総合的に学習します。一人ひとりが現在の生活を見つめ、よりよくするために主体的にかかわる学習を通して、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度の育成を到達目標にしています。

### 学習方法

実践的・体験的な学習活動を通して、家庭や地域の生活を科学的・総合的にとらえていくことに努めましょう。  
 実際の生活に生かすよう、学んだことを自分自身の問題ととらえ、生活をよりよくするための工夫を考え、実践しましょう。  
 授業で使用するワークシート（学習プリント・ノート）を上手に活用して、学習が確実に自分のものとなるよう、より深い理解をめざして取り組みましょう。

### 学習評価

次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめりごとに下の評価マトリクスにより評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

関心・意欲・態度	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。					
思考・判断	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、生活課題を主体的に解決するために思考し、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。					
技能・表現	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。					
知識・理解	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活など生活を充実向上するために必要な知識を総合的に身に付けている。					
	評価方法\観点					
	学習状況観察		-	-	-	自己評価の実施
	ワークシート					学習プリント・ノート
	研究（実践）・発表					ホームプロジェクトなど
	実験・実習					レポート・製作物等
	ペーパーテスト	-				確認テスト・定期考査

表中の は観点の中でより重視するところです。  
 学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標到達に努めましょう。

### 学習サポート

随時、学習相談を実施していますので、理解の難しいところ、つまづいている箇所があれば、早めに解決しましょう。

1年学習プログラム（年間学習計画）

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期 36 単位 時間 想定	0 家庭総合を学習するにあたって 1 人の一生と家族・家庭 (1) 人の一生と発達段階 (2) 家族・家庭と社会 (3) 生活設計	人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族家庭と社会とのかかわりについて理解を深め、現在及び将来の生活のあり方を考えるために必要な知識や技術を身に付けます。 家族・家庭の在り方、各自の将来の生活構想などについて課題を見つけ、その解決をめざして思考を深めます。	教科書、ワークシート、資料集等を活用し、人の一生と発達課題、家族・家庭と社会、生活設計について学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【前期中間・期末考査】 【自己評価】
	<ホームプロジェクト>	生活の中から課題を見だし、課題解決に向けて思考を深め、身に付いた知識技術を生かして実践します。	主体的に生活課題を発見し、計画をたてて実践し、評価を行います。 【レポート】 【発表】
	2 衣生活の科学と文化 (1) 人間と被服 (2) 被服材料の性能と特徴	被服材料、被服の構成、被服製作、被服整理などについて科学的に理解し、衣生活を充実向上させるために必要な知識や技術を身に付けます。 衣生活の科学と文化に関心をもち、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深めます。	教科書、ワークシート、実験、実習等を通して、被服材料、被服の構成、被服製作、被服整理について学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【後期中間考査】 【レポート】 【製作物】 【自己評価】
後期 36 単位 時間 想定	3 食生活の科学と文化 (1) 人間と食べ物 (2) 栄養と食事 (3) 食品と調理 (4) 食生活の管理	栄養、食品、調理などについて科学的に理解し、食生活を充実向上させるために必要な知識や技術を身に付けます。 食生活の科学と文化に関心をもち、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深めます。	教科書、ワークシート、実験、実習等を通して、栄養、食品、調理について学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【後期期末考査】 【レポート】 【自己評価】

2年学習プログラム（年間学習計画）

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期 36 単位 時間 想定	4 住生活の科学と文化 (1) 住居の機能 (2) 住空間の計画 (3) 住環境の整備	住居の機能、住空間の計画、住環境の整備などについて科学的に理解し、住生活を充実向上させるために必要な知識や技術を身に付けます。住生活の科学と文化に関心をもち、課題を見つけ、その解決をめぐりて思考を深めます。	教科書、ワークシート、実験、実習等を通して、住居の機能、住空間の計画、住環境の整備などについて学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【前期中間考査】 【レポート】 【自己評価】
	5 消費生活と資源環境 (1) 消費行動と意志決定 (2) 家庭の経済生活 (3) 消費者の権利と責任 (4) 消費行動と資源環境	消費行動と意思決定、家庭の経済生活、消費者の権利と責任、消費行動と資源・環境について理解を深め、責任を持って行動するために必要な知識や技術を身に付けます。家庭経済と国民経済とのかかわり、消費生活の課題、資源や環境とのかかわりについて課題を見つけ、その解決をめぐりて思考を深めます。	教科書、ワークシート、実験、実習等を通して、消費行動と意思決定、家庭の経済生活、消費者の権利と責任、消費行動と資源・環境について学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【前期中間・期末考査】 【レポート】 【自己評価】
	<ホームプロジェクト>	生活の中から課題を見だし、課題解決に向けて思考を深め、身に付いた知識技術を生かして実践します。	主体的に生活課題を発見し、計画をたてて実践し、評価をおこないます。 【レポート】 【発表】【自己評価】
	6 生活文化の伝承と創造	心豊かな生活を営むために必要な生活文化の背景や変化について理解を深めます。衣食住のいずれかにかかわる課題を取り上げ、実験・実習やまとめの発表等を通して、生活の文化の伝承と創造という観点から思考を深めます。	衣食住に関する学習を踏まえて、いずれかにかかわる課題を取り上げ、生活文化の大切さを学習します 【レポート】 【発表】 【自己評価】



後期 36 単位 時間 想定	7 子どもの発達と保育・福祉 (1) 子どもの発達 (2) 親の役割と保育 (3) 子どもの福祉	子どもの発達と保育、子どもの福祉などについて理解を深め、子どもの健全な発達と支える親や社会の果たす役割について認識するための知識と子どもと適切にかかわることや子どもの健全な発達を支援するために必要な技術を身に付けます。 子どもの心身の発達や生活と遊び、親の役割と子どもの人間形成などについて、現代の家庭や地域の生活を見つめて課題を見つけ、その解決をめざして思考を深めます。	教科書、ワークシート、実習等を通して、子どもの発達と保育、子どもの福祉。子どもの健全な発達を支える親の役割と保育の重要性や社会の果たす役割について学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【後期中間考査】 【レポート】 【自己評価】
	8 高齢者の生活と福祉 (1) 高齢者の心身の特徴と生活 (2) 高齢者の福祉 (3) 高齢者の介護の基礎	高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉などについて理解を深め、高齢者の自立生活を支える家族や地域及び社会の果たす役割について認識するための知識と高齢者と適切にかかわることや高齢者の自立生活を支えるために必要な技術を身に付けます。 高齢者の生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について思考を深めます。	教科書、ワークシート、実習等を通して、高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉、高齢者の自立生活を支えるための家族や地域及び社会の役割について学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【後期期末考査】 【レポート】 【自己評価】





## 教科シラバス（情報科）

科目名	情報 A	学年	1年	使用教材	【教科書】情報 A	出版社
		必修・選必・コース選			【副教材】使用アプリケーションソフトウェアのマニュアル	
講座		単位数	2単位			
学習系統科目	2年次以降の情報科選択科目					

### 学習目標

情報通信ネットワークの活用による、情報の収集・処理・発信などの実習を通して、身の回りの課題を解決するために必要な基礎的知識や技能を習得するとともに、情報を主体的に活用しようとする態度など、情報を活用する実践力を身に付けることを目標とした学習を行います。

さらに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの利用において配慮すべき事項や情報化の進展が生活に及ぼす影響などの学習を通して、情報化社会に参加する態度を身に付けます。


### 学習方法

総授業時数の半分以上が実習の時間となっています。このことは、学習活動中での作品制作などが大きなウェイトを持つことを示しています。実習には、PC教室での実習以外にも、図書室での情報収集や教室でのグループ討議などいろいろな活動を含んでいます。

PC教室での実習においては、単にソフトウェアの使い方の習得を目標にするのではなく、実習の目的を意識した学習を行います。例えば、文書作成ソフトウェアを利用した実習の場合は、“この機能を使うと早く文章が打てる”というのではなく、“この機能を利用すると効果的である”というように、実社会での場面を想定しながら学習を進めていきます。

### 学習評価

次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに下の評価マトリクスにより評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

関心・意欲・態度	コンピュータや情報通信ネットワークに関心を持ち、身のまわりの問題を意欲的に解決しようとしている。 主体的に情報の収集・処理・発信を行い、自他を評価・改善し、情報社会に積極的に参画しようとしている。					
思考・判断	情報モラルを踏まえた適切な判断ができている。 情報の特徴に応じた処理手順や処理方法の適切な選択ができている。					
技能・表現	問題解決においてコンピュータや情報通信ネットワークを活用する技能を習得している。 目的に応じた情報の適切な表現ができている。					
知識・理解	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を身に付けている。 情報社会における情報技術の役割や影響を理解している。					
	評価方法\観点					
	学習状況観察		-		-	自己評価の実施
	自己評価シート					毎週提出
	課題レポート			-		学期に1回提出
	作品提出				-	学期に1回提出
	ペーパーテスト	-		-		定期考査

表中の は観点の中でより重視するところです。

学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標到達に努めましょう。

### 学習サポート

随時、学習相談を実施していますので、理解の難しいところ、つまづいている箇所があれば、早めに解決しましょう。

進路を踏まえた学習相談にも個別に対応しますので、積極的に活用しましょう。

## 学習プログラム（年間学習計画）

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期  36 単位 時間 想定	1 問題を解決するための工夫 (1) グループ旅行を計画しよう (2) 問題解決の流れを理解しよう 2 情報を伝達するための工夫 (1) いろいろな人に近況報告をしよう (2) わかりやすい説明書をつくろう (3) 伝えるとはどういうこと	実習を通じた学習により、身の回りの課題を解決するために必要な基礎的知識や技能を習得します。 伝達する情報にはそれに適した提示方法があることを、体験的に学習し、情報を主体的に活用しようとする態度など、情報を活用する実践力を身に付けます。	インターネットや図書室等の情報資源を活用した実習を行います。 具体的な課題を設定した体験的な学習や、グループ協議を行います。 【学習状況観察】 【自己評価シート】 【課題レポート】
	3 情報の検索と収集 (1) 自分たちの地域を PR しよう (2) インターネットで地域の情報を集めよう (3) いろいろな方法で情報を集めよう (4) テーマを絞り込もう (5) フィールドに出て情報を収集する (6) 情報収集のときに知っておきたいこと 4 情報の発信と共有に適した情報の表し方 (1) 情報を共有して発信する内容を考える (2) Web ページを作成する 5 情報を発信する際の注意点 (1) Web ページを発信する前に (2) 豊かなネットワークコミュニケーションのために	情報の表し方や伝え方の取り決め（プロトコルや圧縮など）について学習するとともに、著作権や個人情報への配慮や情報発信者としての責任について学習し、コンピュータや情報通信ネットワークなどの利用において配慮すべき事項や情報化の進展が私たちの生活に及ぼす影響などを考えます。 Web ページの作成実習を通して、情報を正確に伝達するために必要な知識や技能についての理解を深めます。	情報の検索や収集についてのさまざまな工夫（配慮）や情報を提供する側の工夫（配慮）について実習を中心に学習します。 実習で制作した作品の発表会を行います。 【学習状況観察】 【自己評価シート】 【作品提出】 【ペーパーテスト】
後期  36 単位 時間 想定	6 コンピュータによる情報の統合 (1) 身の回りのメディアを調べてみよう (2) このソフトウェアは何が得意なのだろうか (3) 情報の形態とデジタル化 (4) 音声ファイルをつくってみよう (5) 画像ファイルをつくってみよう (6) コンピュータでイラストを描いてみよう (7) マルチメディア作品をつくろう 7 情報の統合的な処理 (1) わたしたちもプロダクション (2) ネットワークを利用した共同制作 8 情報の分析と問題解決 (1) 表や図を意思決定に役立てよう (2) 情報を多様に活用するデータベース	さまざまなアプリケーションソフトウェアの活用方法を実習し、扱う情報の種類に適した取扱い技法を習得します。 効果的に情報を伝達するために必要な情報の加工・分析について考え、アプリケーションソフトウェアによる効果的・効率的な加工・分析方法についての理解を深めます。	情報の効果的・効率的な情報の加工・分析を目的に、文書処理ソフト、表計算ソフト、図形処理ソフト、画像処理ソフト及びデータベースソフトの利用法についての実習を行い、情報の加工・分析方法について考察します。 【学習状況観察】 【自己評価シート】 【作品提出】
	9 情報機器の発達とその仕組み (1) コンビニエンスストアが便利なのはなぜ？ (2) 情報機器とデジタル化 (3) デジタル通信技術の発達 (4) インターネットの仕組みを見てみよう (5) コンピュータの発達と役割の変化 10 情報化の進展が生活に及ぼす影響 (1) 情報技術が社会を支える (2) 地域に広がる情報システム (3) これからの情報技術と社会 11 情報社会への参加と情報技術の活用 (1) 社会の変化と人間の関わり (2) 情報社会の光と影 (3) これからの社会で必要とされる能力	いろいろな情報機器についてアナログとデジタルとを対比しながら学習し、コンピュータと情報通信ネットワークの仕組みなど、情報についての科学的な理解を深めます。 「情報 A」の学習成果を総合し、情報化社会へ参画するための心構えについて考え、情報社会に積極的に参加する態度を身に付けます。	情報機器や情報ネットワークの仕組みなどについての課題研究を行います。 情報化の進展が社会や生活に及ぼす影響についての調べ学習や討議を行います。 【学習状況観察】 【自己評価シート】 【課題レポート】 【ペーパーテスト】

## 教科シラバス [ 工業 ( 化学科 ) ]

科目名	工業化学	学年	1・2・3年	使用教材	【教科書】工業化学	出版社
			必修・選必・コース選			【副教材】化学小事典
講座		単位数	各2単位			
学習系統科目	化学工学 ( 4 単位 )、地球環境化学 ( 2 単位 )					

### 学習目標


工業化学では、これまで皆さんが小・中学校で学んだ理科の知識や学習経験を生かして、化学物質の特性や化学の基本概念や原理・原則から化学工業が資源とエネルギーを有効利用して諸材料を製造し、さらに環境保全について重要な技術であることを詳しく学習し、未来の新しい化学や技術の発展を探究します。この学習では、さまざまな実験はもとより工場見学や就業体験等を通して化学的なものの見方や考え方を身に付けるとともに、自ら主体的に学ぶ態度を習得し、工業の視点から離れることなく化学の素養を身に付けることを目標にしています。

### 学習方法

毎時間の授業では、はじめに必ず学習のめあてを示しますので、それを手がかりに、学習プリントに即して教科書を参考にして、積極的に学習しましょう。  
工業化学に関するさまざまな基礎実験を通して、知識と技術を総合的に体得し、「なぜだろう」と思ったことは教科書等の教材を活用して分析的に考察し、ただ暗記だけの学習にならないように心がけましょう。  
授業で使用する学習プリントやワークシート ( 確認プリント ) を上手に活用して、考え、吸収した知識が確実に自分のものとなるよう、より深い理解をめざして取り組みましょう。

### 学習評価

次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめり ( 定期考査までを学習のひとつまとめり ) ごとに下の評価マトリクスにより評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

関心・意欲・態度	工業化学に関する諸問題について関心を持ち、環境保全や資源の有効利用にも配慮しながら意欲的に取り組むとともに、社会の発展を図る創造的、実践的な態度を身に付けようとしている。					
思考・判断	工業化学に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。					
技能・表現	工業化学の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、安全や環境に配慮し、実験・実習を適切に処理するとともに、その成果を的確に表現している。					
知識・理解	工業化学の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、工業の発展と環境・資源などとの調和の取れたあり方、工業の意義や役割を理解している。					
	評価方法 \ 観点					
	学習状況観察		-	-	-	自己評価の実施
	ワークシート					学習ファイルの使用
	実験・課題レポート					実験・課題毎に提出
	ペーパーテスト	-				確認テスト・定期考査

表中の は観点の中でより重視するところです。

学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標到達に努めましょう。

### 学習サポート


随時、学習相談を実施していますので、理解の難しいところ、つまづいている箇所があれば、早めに解決しましょう。

工場見学や就業体験等でより、実際的な知識と技術を身に付けましょう。


1年学習プログラム（年間学習計画）

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期 36 単位 時間 想定	0 工業化学を学習するにあたって 1 物質と化学 (1) 物質 (2) 元素・原子・分子・イオン 2 元素の性質と化学結合 (5) 元素の分類と周期表 (6) 原子の構造と電子配置 (7) 化学結合 (8) 物質を表す式 (9) 物質と自然	物質を構成している基本的な元素や化合物について理解を深め、化学に関する基礎的な知識や考え方を身に付けます。 資源の有効利用、環境保護の重要性などについて考え、理解を深めます。	学習プリント及び基礎的な実験を通して、化学的な素養を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【実験レポート】 【前期中間考査】 【自己評価】
	3 物質の変化と量 (1) 物質の変化 (2) 化学反応式 (3) 化学式と物質の量 (4) 化学反応と化学工業 4 空気と気体の性質 (1) 空気 (2) いろいろな気体  <化学工場見学>	化学変化及び化学反応式の基礎的な内容について理解を深め、実際に活用できるようにします。 気体の性質について、化学工業での応用例と関連づけて考察し、理解を深めます。 化学工場を見学することで実際の知識を深めます。	学習プリント及び基礎的な実験を通して、化学的な素養を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【実験レポート】 【前期期末考査】 【自己評価】 化学工場の調査活動や探究活動を行います。 【課題レポート】
後期 36 単位 時間 想定	4 空気と気体の性質 (3) 気体の性質 (4) 空気の利用 5 水と溶液 (1) 水 (2) 溶液とその性質  	気体の法則を中心に気体の性質の基礎的な内容について理解を深め、実際に活用できるようにします。 アンモニアの工業的製法から、空気を利用した化学工業について理解を深めます。 溶解度や濃度計算が実際に活用できるようにします。	学習プリント及び基礎的な実験を通して、化学的な素養を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【実験レポート】 【後期中間考査】 【自己評価】
	5 水と溶液 (3) コロイド (4) 水資源と環境 6 酸と塩基 (1) 酸と塩基 (2) 水素イオン濃度とpH (3) 中和と塩 (4) 生活や工業と酸・塩基	コロイド溶液の性質について理解を深めます。 酸及び塩基の基礎的な内容について理解を深め、実際に活用できるようにします。	学習プリント及び基礎的な実験を通して、化学的な素養を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【実験レポート】 【後期期末考査】 【自己評価】

2年学習プログラム（年間学習計画）

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期 36 単位 時間 想定	1 酸化と還元 (1) 酸化反応と還元反応 (2) 電池 (3) 電気分解 (4) 生活や工業の中の酸化と還元	酸化と還元及び電気分解と電池について理解を深め、酸化還元の基礎的な内容が実際に活用できるようにします。	学習プリント及び基礎的な実験を通して、化学的な素養を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【実験レポート】 【前期中間考査】 【自己評価】
	2 化学反応と熱・光 (1) 化学反応と熱 (2) 化学反応と光 3 反応速度と化学平衡 (1) 反応速度 (2) 化学平衡 (3) 反応速度・化学平衡の理論と化学工業	燃焼に伴う化学変化とエネルギー - 変化の基礎的な内容について理解を深め、実際に活用できるようにします。 写真などの光エネルギー - と化学反応の実例から、反応速度と化学平衡の基礎的な内容について理解を深め、実際に活用できるようにします。	学習プリント及び基礎的な実験を通して、化学的な素養を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【実験レポート】 【前期期末考査】 【自己評価】
後期 36 単位 時間 想定	4 食塩とアルカリ金属、ハロゲン (1) 海水と製塩 (2) アルカリ金属 (3) ハロゲン (4) 海水の利用 5 元素の性質と化学結合 (1) 典型元素 	アルカリ金属とハロゲンの性質について理解を深めます。 食塩を原料とした化合物の工業的製法を利用し、海水の化学的利用について理解を深めます。 典型元素の性質について理解を深めます。 化学工場での就業体験で、実際的な知識・技術を探求し、その成果を発表します。	学習プリント及び基礎的な実験を通して、化学的な素養を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【実験レポート】 【後期中間考査】 【自己評価】  就業体験で探究活動を行い、発表します。 【課題レポート】
	5 元素の性質と化学結合 (2) 遷移元素 (3) 生活と元素 6 放射性物質と原子核 (1) 原子核 (2) 放射性物質 (3) 放射線の測定と利用 (4) 原子核の利用	遷移元素の性質について理解を深めます。 原子力エネルギー - の利用法から、放射性物質の性質と利用について理解を深めます。	学習プリント及び基礎的な実験を通して、化学的な素養を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【実験レポート】 【後期期末考査】 【自己評価】

3年学習プログラム（年間学習計画）

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
前期 36 単位 時間 想定	1 石油と化学 (1) 原油と石油製品 (2) 有機化合物の基礎 	脂肪族炭化水素及びその誘導体、環式炭化水素、芳香族炭化水素およびその誘導体を取り上げ、有機化合物の基礎について理解を深めます。	学習プリント及び基礎的な実験を通して、化学的な素養を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【実験レポート】 【前期中間考査】 【自己評価】
	2 物質の安全な取扱い (1) 物質の有害性 (2) 危険性物質 < 普通救命講習 > 3 石油・石炭の化学工業 (1) 石油の精製 (2) 石油化学工業 (3) 天然ガス・石炭の化学工業	有害物質と危険物に関する取扱い方法や取扱者の管理責任について理解を深めます。 救命講習を受講し救命技能を身に付けます。 化学工業の原料としての石油の役割から、石油製品の製造に関する基礎的な内容について理解を深めます。	学習プリント及び基礎的な実験を通して、化学的な素養を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【実験レポート】 【前期期末考査】 【自己評価】 救命講習会で実際の技術を学習します。 【課題レポート】
後期 36 単位 時間 想定	4 工業材料と新素材 (1) セラミックス材料 (2) 金属材料 (3) 高分子材料 < 創造的な化学技術者 >	セラミック、金属、高分子及び機能性材料の性質と用途から、材料と化学に関する基礎的な内容について理解を深めます。 「創造的な化学技術者」をテーマに、自ら課題を設定・探究し、その成果を発表します。	学習プリント及び基礎的な実験を通して、化学的な素養を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【実験レポート】 【後期中間考査】 【自己評価】 個別の課題に即して調査活動や探究活動を行い、発表します。 【課題レポート】
	5 生命と化学工業 (1) 食品と化学 (2) 肥料と農薬 (3) バイオの化学 (4) 医薬品 6 生活と化学工業 (1) セッケンと界面活性剤 (2) 色素材料と塗料 (3) 紙・印刷・写真 (4) 情報と材料	身近な生活用品を例として、生活と化学工業製品のかかわりについて理解を深めます。 酵素と微生物を利用した化学工業からバイオテクノロジーの基礎的な内容について理解を深めます。	学習プリント及び基礎的な実験を通して、化学的な素養を系統的に学習します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【実験レポート】 【後期期末考査】 【自己評価】

## 特別活動シラバス（第1学年）

分野	特別活動 (第1学年)	全日制普通科	内 容
		クラス：6クラス 生徒数：240名	ホームルーム活動（1単位） 生徒会活動 学校行事

### 特別活動について

特別活動は、教科・科目と同じように教育課程に位置づけられた教育活動です。具体的には、「ホームルーム活動」、「生徒会活動」、「学校行事」のことを言います。  
第1学年では、「一人ひとりの生徒のホームベイとなる学校・学年・クラスづくり」を運営方針に掲げています。特別活動においては、様々な活動に意欲的に取り組むことによって、皆さん一人ひとりが充実した自らの高校生活をつくり上げていきましょう。

### 目標と取組

#### 目標

集団活動に積極的に取り組む中で、お互いを認め合おう。  
将来の自己実現に向けて、自己理解を深めよう。



#### 取組

- ・グループ単位、クラス単位、学年単位、学校単位でさまざまな活動を行います。それぞれの集団活動の意義を理解して、積極的に活動に取り組みましょう。
- ・活動の場では、皆さん一人ひとりが個性を発揮して、お互いの良さを認め合うとともに、新たな自己を発見しましょう。

#### 第1学年「ホームルーム活動」の月別学習目標

4月	高校生活を設計しよう	新しい集団（クラス組織など）をつくろう
5月	学習習慣を身に付けよう	宿泊研修の計画をしよう
6月	友人の輪を広げよう	卒業生や中学生と交流しよう
7月	奉仕活動について考えよう	安全な高校生活を送ろう（夏休み）
9月	生活習慣を見直そう	文化祭を成功させよう
10月	自己を見つめ直そう	社会的視野を広めよう（地域の方との交流）
11月	学びの意味を考えよう	進路（選択科目）について考えよう
12月	芸術や文化について考えよう	男女共同参画社会について考えよう
1月	クラスの文集をつくろう	心の健康について考えよう
2月	クラスでレクリエーションを楽しもう	
3月	自分の夢や生き方について語り合おう	

### 評価方法

特別活動においても評価を行います。評価を行うことはありません。活動の内容に即して、ねらいが達成されるよう、その都度、適切な評価を行いながら指導に生かしていきます。

#### 1. 評価の時期

- ・「個々の活動（行事等）の終了時」、及び「定期的な評価（年間3回程度）」を行います。

#### 2. 評価の観点

- ・活動への自主性や主体性、責任感、創意工夫など、取り組みの姿勢を振り返ります。
- ・活動から学んだことや感想や反省など、活動を見つめ直します。
- ・活動は自分にとってどのような意味があったのか、さらに今後取り組みたい活動はどのようなことかなど、活動全体を客観的にとらえ直します。


#### 3. 評価の方法

- ・自己評価を中心にして、相互評価（グループや係等）を取り入れて行います。

### 安全教育について

皆さんに安全な学校生活を過ごしてもらうために、年間3回の「学校安全教室」を行います。内容は、「高校生活入門、夏休みの過ごし方、学校事故防止」の予定です。

## 教育活動プログラム

月	指 導 内 容 等		
	ホームルーム活動	生徒会活動	学校(学年)行事
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR開き (自己紹介、各種委員や係決め)</li> <li>・高校生活を設計しよう</li> <li>・進路希望調査</li> <li>・学校安全教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面式</li> <li>・生徒会各委員会の活動開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学式</li> <li>・課題テスト</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊研修の計画</li> <li>・学習習慣を身に付けよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒総会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実力テスト</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊研修を振り返って</li> <li>・高校卒業生との懇談会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊研修の運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊研修(3泊4日)</li> <li>・中学生一日体験入学</li> <li>・前期中間考査</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講演会、進路適性検査</li> <li>・2年次の選択科目説明会</li> <li>・学校安全教室</li> <li>・奉仕活動について考えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域清掃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講演会</li> <li>・実力テスト</li> <li>・マリンスポーツ体験教室(希望者)</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次選択科目調査、進路希望調査</li> <li>・文化祭準備</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期期末考査</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭の振り返り</li> <li>・後期のクラス組織づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々との交流会</li> <li>・文化祭の運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭</li> <li>・実力テスト</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩く会の運営</li> <li>・学びの意味を考えよう</li> <li>・進路について考えよう</li> <li>・三者面談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩く会の運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学授業体験</li> <li>・社会人講師の授業体験</li> <li>・歩く会</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全教室</li> <li>・芸術や文化について考えよう</li> <li>・男女共同参画社会について考えよう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術鑑賞会</li> <li>・ウインタースポーツ体験教室(希望者)</li> <li>・後期中間考査</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス文集づくり</li> <li>・心の健康について考えよう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実力テスト</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスでのレクリエーション</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習発表会(弁論、英語スピーチ、合唱、芸術作品展示)</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の夢や生き方について語り合おう</li> <li>・進路希望調査</li> <li>・2年次の教育課程等の説明会</li> <li>・春休み課題提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年球技大会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期期末考査</li> <li>・学年球技大会</li> </ul>

特別活動のあり方は、生徒の創意工夫を生かした企画・運営を基本としています。皆さんが、さまざまな活動を通して、リーダーシップや協調性を育てていくことを期待しています。



## 「総合的な学習の時間」シラバス

科目名	マイ・キャリア・デザイン	学年	1～3年	使用教材	【教材】 「マイ・キャリア・デザイン」本校作成教材 「課題解決ツールブック」 本校作成教材 「学習ファイル 年」 本校指定ファイル
		必修・選必・コース選			
講座		単位数	3単位		
学習系統科目	全教科・特別活動と関連				

### 学習目標

「マイ・キャリア・デザイン」は、本校の「総合的な学習の時間」の名称です。すでに皆さんは小・中学校での「総合的な学習の時間」を通して、さまざまな学習活動を体験してきたことと思います。本校では、「マイ・キャリア」、すなわち自己理解をはじめ、自らの個性や適性に応じた生き方の探究、「キャリア・デザイン」（進路設計）やジョブ・シャドウなどの学習活動を通して、進路実現に向けて必要なキャリア諸能力（人間関係形成能力・情報活用能力・進路設計能力・意思決定能力）を身に付けていくことがねらいです。また、本校の「総合的な学習の時間」では、教科等との関連を図りながら、個々に課題解決能力を身に付けるとともに、ヒト・モノ・情報とのかかわりから共生や協働の意義を体験的に理解することにも努めます。

### 学習方法


「マイ・キャリア・デザイン」の学習は、3年間にわたり6ユニット（単元）で構成され、本校で作成した教材を活用して展開していきます。

学習活動の記録は、別に用意した「学習ファイル」を用いて整理していきます。

この学習では個別学習を基本に、皆さんの主体的かつ積極的な活動を期待していますが、学習内容に応じて共同で調べ、協議し、発表するなどグループで活動することもあります。

### 学習評価

次の四つの観点により、ユニット（単元）ごとに下の評価マトリクスに基づいて評価を行い、取り組んできた学習活動状況と総括した評価を、学年末にそれぞれ文章で表記します。

本学習への関心・意欲・態度	自己のあり方や将来の進路・生き方に関して積極的に考えるとともに、学習に対する意欲を高め、創造的・実践的な態度を身に付けようとしている。					
課題解決に関する諸能力	現代社会や地域の諸課題と関連づけて、自らの進路・生き方について課題を設定し、多面的・多角的に考察し、解決することができている。					
キャリアに関する技能・表現（情報活用能力・進路設計能力）	進路や職業等に関する有用な情報を収集・探索・活用する資質や能力を習得するとともに、目標とする将来の進路や生き方を実現するためのマイ・キャリア・デザインを作成し、的確に表現するなどのスキル等を身に付けている。					
本学習を通しての知識・理解とそれらを生かす力	自らの進路・生き方にかかわる様々なキャリア諸能力に関する知識を身に付け、自らの進路や生き方と関連づけて理解するとともに、それらを自己の進路実現に向けて生かそうとしている。					
	評価方法\観点					
	学習状況観察		-			自己評価・相互評価の実施
	「マイ・キャリア・デザイン」					マイ・キャリア・デザイン 等
	ポートフォリオ					学習ファイル資料の使用
	課題研究成果		-			



表中の は観点の中でより重視するところです。

学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標到達に努めましょう。

### 学習サポート

この学習では、学習者一人に対して主・副二名の教員が学習アドバイザーとしてサポートを行っていきますので、学習の進め方等でわからない点や難しいところがあれば、積極的に相談するなどして早めに解決して、自分にとってより実りある成果をめざしましょう。

学習プログラム（全体学習計画）

学年	学習ユニットと内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1年 前期 18 単位 時間	ユニット1 「自己理解のプロムナード」 (1) 「マイ・キャリア・デザイン」ガイダンス (2) これまでの自己の学びと生き方へのフィードバック (3) 本当の自分に出会う探究活動 	本校の「総合的な学習の時間」の全体像について理解していきます。 自らの学習活動と進路・生き方との関係を、小・中学校にさかのぼって追究し、現状の自分を見つめ直します。 自らの個性について考察し、その生かし方を探究するとともに、自己の能力・適性について理解を深めます。	本校作成の「マイ・キャリア・デザイン」(総合ノート)に即して、ユニットごとに学習します。 活動の記録は、「学習ファイル」を活用して整理していきます。 上記は以下のユニットにも共通 【学習状況観察】 【マイ・キャリア・デザイン】 【ポートフォリオ】
後期 18 単位 時間	ユニット2 「ファースト・デザイン」 (1) キャリア・デザインへのスキル学習 (2) 職業観の形成とジョブ・シャドウ (3) マイ・キャリア・デザイン 	マイ・キャリア・デザインに向けた情報収集や進路設計に関する諸能力を身に付け、実際に描いていきます。 職場訪問やジョブ・シャドウを通して、自らの職業観の形成に取り組みます。	本校作成の「課題解決ツールブック」を活用してキャリア・デザインへのスキル学習を展開します。 【学習状況観察】 【マイ・キャリア・デザイン】 【ポートフォリオ】
2年 前期 18 単位 時間	ユニット3 「現代社会の諸問題へのアクセス」 (1) 「マイ・キャリア」に関連する現代社会的な諸問題についての探究 (2) 課題解決へのエクセサイズ (3) ポスター・セッション	自らの進路・生き方に関係する現代社会の諸問題から、各自課題を設定し、探究した成果を発表することで、課題解決能力を身に付けます。	本校作成の「課題解決ツールブック」を活用してキャリア・デザインへのスキル学習を展開します。 【学習状況観察】 【ポートフォリオ】
後期 18 単位 時間	ユニット4 「マイ・キャリアに関する総合研究」 (1) 研究課題の設定・ (2) 探究活動	自己の進路・生き方に応じた課題を設定し、これまでの学習経験を生かして探究し、研究成果の発表・まとめ・評価を行い、進路実現に向けた総合的な研究に取り組みます。	同上 【学習状況観察】 【ポートフォリオ】 【課題研究成果】
3年 前期 18 単位 時間	ユニット5 「マイ・キャリアに関する総合研究」 (3) 研究発表 (4) 研究のまとめ・評価	「ファースト・デザイン」の再考・改善を通して、マイ・キャリア・デザインの完成をめざします。	同上 【学習状況観察】 【ポートフォリオ】 【課題研究成果】
後期 18 単位 時間	ユニット6 「セカンド・デザイン」 (1) マイ・キャリア・デザイン (2) 学習全体を振り返って	「ファースト・デザイン」の再考・改善を通して、マイ・キャリア・デザインの完成をめざします。	同上 【学習状況観察】 【マイ・キャリア・デザイン】 【ポートフォリオ】

## 『高等学校シラバス例示集』作成プロジェクトチーム

水島 耕成 (研究開発課) 学校経営・理科  
井坂 秀一 (事業推進課) 学年経営・国語科・特別活動  
梶 輝行 (研究開発課) 地理歴史科・「総合的な学習の時間」  
平野 明 (人材育成課) 芸術科 本紙デザイン担当  
大平 雅子 (研究開発課) 家庭科  
江原 美明 (研究開発課) 外国語科  
笹本 勝也 (情報交流課) 数学科  
西原 秀夫 (情報交流課) 情報科  
三尾 和彦 (情報交流課) 公民科  
高梨美智子 (基本研修課) 保健体育科  
棟方 克夫 (基本研修課) 工業化学科

は編集担当者

### 高等学校シラバス例示集

発行日 平成 16 年 2 月 10 日  
発行者 鈴木 宏司  
発行所 神奈川県立総合教育センター(カリキュラムセンター)  
〒251-0871 藤沢市善行7 - 1 - 1  
電話 (0466)81-1659(研究開発課 直通)  
ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>